

HIMALAYA

ヒマラヤ

No. 297



1996 AUGUST



日本ヒマラヤ協会
THE HIMALAYAN ASSOCIATION OF JAPAN — HAJ

1997年サマー・キャンプ登山隊員募集

玉珠峰 (6,179m)

世界の屋根である青藏高原に美しいスノーピークがあります。短い期間で高峰にアイゼンをきませたいと考えておられる方のために22日間のキャンプを企画しました。(H A Jでは既に2度登頂) 青海省の省都である西寧から西へ約1,000キロ。山中には1週間滞在の予定です。

記

1. 期間:1997年7月25日～8月17日(24日間)
2. 募集人員:10名程度
3. 負担金:60万円
4. 切り:定員になり次第
5. 資料請求先:H A J事務局

ヌン (7,135m)

インド・ヒマラヤのサマーキャンプとして、1997年夏もカシュミール・ヒマラヤで開催します。カシュミールの盟主ヌンの高峰登山とラダックの素晴らしい雲上のヒマラヤの旅が楽しめます。

表紙写真

ネパール、クンブー地方のナムチェ・バザールよりロールワリンの谷へ降りるテシ・ラブツァ越えのルートがある。テシ・ラブツァより私達の目指したバルチャモ(6273m)の頂へと尾根が伸びている。東面のクローアールを登り尾根へ飛び出すと眼下には白く輝くトラム・バウ氷河、正面にはタカルゴ(6793m)、ドッシリとした6662mの無名峰などロールワリンの山々を望むことができた。
(野沢井歩)

記

1. 期間:1997年7月20日～8月24日(36日間)
2. 隊員:10名
3. 費用:75万円
4. 切り:定員になり次第
5. 申し込み:H A J事務局まで

地図と図書の販売

1. 地図 (いずれも中文1枚1,500円 送料込み)
珠穆朗瑪峰:10万分の一(東はマカルーから、西はチョー・オユーまで)
喬戈里峰:10万分の一(東はガッシャーブルムIから、西はクラウン、チリンまで)
希夏邦馬峯:10万分の一(東はモラメンチンから、西はガネッシュ・ヒマールまで)
但し、主峰が8,012mのものである。
公格爾山-慕士塔格:10万分の一(コングールとムスターグ・アタである)
2. 図書
中国登山指南(4,500円+送料340円) 中文
雪域神山(6,000円+送料700円) 写真集。

ヒマラヤ No297

- | | | |
|------------------------|-----------------------------|------|
| 1. 最後の頂 | パルチャモ峰 | 小山良子 |
| 3. 中高年? | ヒマラヤ流れ旅(6) | |
| | 初めてのパキスタン | 阿部 淳 |
| 7. ヒマラヤ・ニュース | 〈地域ニュース・トピックス・Books・ヒマラヤから〉 | |
| 9. 平成8年度通常総会報告 | | |
| 17. ムスターグ・アタ(7,546m) | 登山計画 | |
| 20. プラブーツ突然破壊シンポジウム(2) | | |
| 28. 寸感・事務局日誌 | | |

最後の頂

— 1995年11月20日～12月12日 —

パルチャモ峰 (6,187m)

小山 良子

■ヒマラヤの麓へ

当初の計画は、クンブーエリアのメラピークとアイランドピークを登ることになっていた。しかし、ビックニュースとして報じられた様に、ネパールで大雪が降りゴークョピークの小屋で沢山の日本人が雪崩で亡くなられたその直後にカトマンズ(KTM)入りをした為、予定は出だしからつまずいた。3日間ほど遭難した方々の後処理を手伝いながら、どうしたものかと思案した。頭の中は1年間思い続けた二つのピークへの未練でしばらくブルーだった。気を取り直すのに少し時間がかかったが、ともかくまだ大雪でBCなどで動けなくなったり、亡くなった方がいる二つピークはほぼ諦めた。そこで、時間稼ぎにルクラへフライトを使わずジリから歩いて行くことにした。昔、ルクラに飛行場が無かった頃は、KTMからジリに進み、そこから1週間近くかけてルクラ、ナムチェへ入って行った。今はその上空をヘリや飛行機がKTMから約40分でルクラに行ってしまう。とりあえず歩いてルクラへ入って情報を得て、それから登山許可を取ることにした。

11/20 KTMからバスでジリへ移動。早朝5時30分発、固くて狭いシートで満員バスで揺られジリに15時30分着。2、3日前から消化不良性の下痢だった自分には辛い一日だった。

11/21 ジリをスタート、デオラリ峠、セテ、ジュンベシ、ドゥードゥーコシ、ブンヤンと進み6日目にルクラ入りした。登っては下り、また登り下りと根気のいる行程だった。日に何度か上空を飛ぶフライトを見上げながら、地道に歩くのは結構楽しかった。文明の力に慣れてしまっている自分には、見て感じて考えさせる物があつた。この山中に住んでいる殆どの人が、一生の内一度も

飛ぶことなく重い荷を背負いながら毎日空を眺めているのだろう。自分は本当に裕福だと実感する。しかし、そんなことを感じながらも下痢でエネルギー不足の身体は最悪だった。お腹に力が入らず、殆ど根性のみで2日間ほど歩いたが「こんなことで6,000m以上の頂に立てるのだろうか」と本気で悩んだりもした。この間、野沢井は得意のネパール語、英語、日本語のチャンポンでネパール人相手に楽しそうに山旅を満喫していた。どんな環境にでもすぐ順化するの毎度の事ながら羨ましい限りだ。

お腹の調子も治まり始めた頃、ルクラに着いて、シュルパのペンバ・ツェリン氏が約束通り合流してくれた。彼とは知り合いなので気が楽だ。色々相談した結果、メラとアイランドピークは雪が多すぎて無理と判断し、ナムチェからターメに入ってロールワリンへ入る峠(テシラブツァ峠)の肩にあるパルチャモ峰を目標にする事にした。時間節約のため、デビ氏にルクラに残ってもらい、メールをフライトで送り、KTMのエージェントに登山許可を取得させ再びメールでルクラに運んでもらう様に手配し、自分たちは歩を進めた。2日後にデビ氏はナムチェで追いついてくれた。ナムチェでは必要な食糧や燃料、不足している装備を買い、コンロをレンタルした。

11/30 途中、ペンバ氏の家に寄りながらターメに入った。やはり雪が多く、例年はまだ地面が出ている場所が真っ白だった。ここは3,800mあるのでアクラマタイゼーションを始める。

12/1 村の上にあるゴンバ(寺)まで上がる。道々好きな曲を何曲も歌う。これは自分流の初期順化で良い効果が出る。

12/2 ターメからテンポー(4,320m)へ移動。例年だとこの時期にはまだテンポーには人が

いて、もっと遅い時期にヤクなどを連れてターメに下り来るらしいが、この大雪で既に人はいなかった。踏み跡を外すと腰より上まで潜る所もある。鍵の無い石造りの納屋を見つけ泊まる。風が少々抜けるが快適なスペースだ。

12/3 順化と荷揚げを兼ねてBC予定地まで上がる。この日、ポーター達が暖を取るため室内で焚いたヤクの糞の煙で喉をやられてしまった。

12/4 BC(4,600m)へ移動。益々雪が深くなり、トレースを外すと這い上がるのに苦労した。BCはちょっとした岩棚の下で、風も少なく少し上の氷柱から垂れる水が取れた。ポーターが帰った後、テントメイキングをする。

12/5 C1(5,200m)へ荷揚げ。今までトレースがあったが、この先は全部ラッセルになった。ただでさえ呼吸が整いにくいのに、膝以上のラッセルは本当にきつかった。殆ど野沢井とペンバ氏が先行し、離れないでついて行くのがやっとだった。C1はヒンドクレパスの亀裂が入った風にさらされた固い雪の上で、テシラプツァ峠が間近に見えた。荷をデポして早々に下る。翌日は休養日にする。

12/7 C1へ移動。雪が多く本来のノーマルルート(テシラプツァ峠から頂稜に上がる)はとて登れそうも無いので、C1の真上の急斜面を登り、頂稜へ続くクローワールからパリエーションルートで登る事に決めた。

12/8 アタック日 5時45分発、陽が出ていないのでもの凄く寒い。風も強く吹きさらしの中、急斜面をアイゼンを1歩1歩蹴り込みながら野沢井、ペンバ、自分とどんどん高度を稼いでいく。登りきり雪のリッジを越えると、小さな浅いルンゼを越え、少し登り返し目的のクローワールの取り付きに着いた。人の入った痕跡の無い、氷と雪の混じった急斜面をフックスして登る。調子が良く楽に高度を稼いだ。しかし、ロープが無くなり、タイトロープで登り出してからすっかり調子を無くした。それまでのマイペースが崩れてしまい、ラストは苦しかった。12時30分平坦な場所に出た。ペンバ氏がピークだと言う。?本当か?確かに人の記録の通りに、大きなクレパスが口を開いているし、高度計は6,100mを指している。どうも渡

▼頂上にて、野沢井(左)と小山(右)



るのに困難なこのクレパスのこの地を、大半の隊がピークとしている様だ。真のピークはあるのだから、これは本当の登頂ではないのでは? 釈然としないが、何度かこのピークに立っているペンバ氏がピークと言うので握手をして祝った。とりあえず東面のクローワールは登ったんだと自分に言い聞かせた。風がともかく強い。ロープをつないだまま写真を沢山撮った。エベレスト、マカルーそして初めて見るロールワリンはとても印象的だった。悪天の兆しで雲が沢山出てきた。何度か懸垂をして下る。へとへとでC1に着く。三人ともあまり食欲もなく早々に食事を済ませ寝る。

翌日、強風の中でC1を撤収しBCへ下る。何度風に吹き飛ばされて飛んだことか。

この日を境に天気が悪くなり、次の日の12/10にBCを撤収し下山する頃には、雪雲が出てきた。その日の内にターメ経由でターモのペンバ氏の家に着きお世話になる。チャンを沢山のみ、同行してくれたポーター達と楽しい時間を過ごした。自分は何より他の隊がいない静かで充実した登山が出来(反省点は沢山あるが)無事に下山したのが嬉しかった。また、ジリから歩いて来た山旅の先に、一つの結果が出たことも感慨深かった。お世話になった方々に「ダンニャバード」。また来ます。

メンバー:野沢井歩(31) 小山良子(33)

※本稿は、5月11日富士山で滑落死亡した小山良子さんの遺稿である。小山さんは今夏HAJのムスターグ・アタ登山隊に参加予定であった。

初めての پاکستان

阿部 淳

(1) 宗教変われば国も変わる

今迄、十数回のインド・ネパール行はあったが پاکستانは初めてである。嫌いなのではなく、山域が広過ぎて短期間では容易にビッグ・ピークに近付けないからである。その証拠に、という訳ではないがH A J北海道の研究会資料として、K C R (カラコルム協議会報告)の分類に基づく山の分布と登山の推移(〜'76)をまとめた事があった。それによって山岳の概念は頭の中に収まっていたし、H A JのK 2や北海道女性隊のシアチェン氷河行、道岳連のプマリチッシュなど身近な動きの中に身を置いていた。そして個人的には北西部の辺境に強く惹かれていた。初めてゆえ三大氷河は敬遠して、西のチトラル〜ギルギット川を基線にその北辺のヒンズーラジを伺い、クンジェラブ峠からウィグルに入る事も念頭においた。

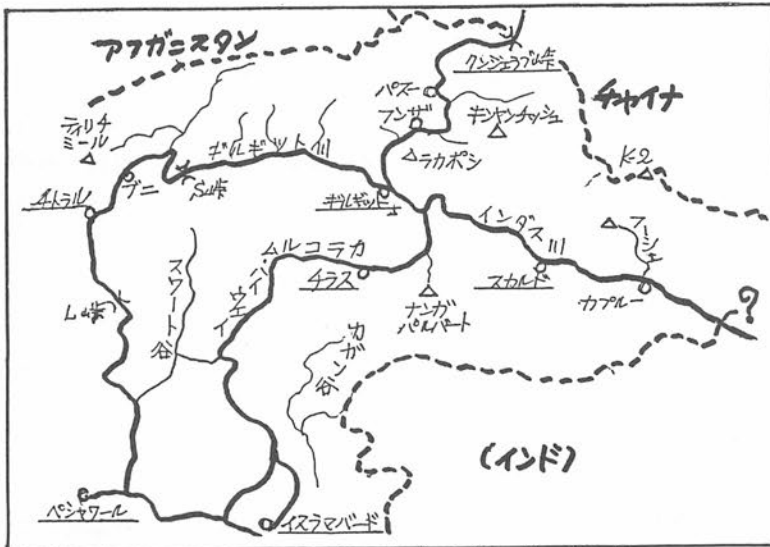
●親切? ご都合主義?

[チケット] まずチケットの手配にPIA (パキスタン航空) オフィスへ行くと“満席でウェイティングにするから明日来てみな”、翌日行くと“何とかプッシュして確保したから明日来なさい”、三日目にようやく手に入れた。\$188 (¥16,000)。

[ビザ取得] パキスタン大使館はコスモ・トレックの3分位先にある。翌日受け取りに行くと“既に発給されているけど私のボス(一等書記官)が会いたいと言っているんで待っててくれない?”と言う。外出中とかで45分待っていても現れないので引き上げた。翌朝ホテルに電話あり時間を打ち合わせ、今度は会えた。“昨日は急用ですみませんでした”と何度も言われる。その都度“ノー・プロブレム・フォ・ミー”。僕のパスポートはインドのビザや出入国スタンプが一杯だったのでその理由を聞かれると思ったが、円は最近何故こうも不安定か、日本のビジネスは変わってきたか、自転車産業の景気はどうかなどの質問で、日本人が少ないために会ってみたかったらしい。“何かしてあげる事はない?”と言うので“PIAのチケットがウェイティングなんだけど、何かいい方法はない?”と聞くと“デリーに行きインド航空でラホールに飛ぶと、50ドルほど安いよ”。え? インドとは犬猿の仲なのに……。

●日本は何故高い

[予防注射] 日本を離れて3ヵ月、また肝炎の予防接種をする時期である。以前利用したクリニックは移転、その近くの(ヤク&イエティの通り)日本大使館で移転先を聞くと、向かいにもあると言う。そのCiwee Clinicは4時で終わり、そこで聞いた王宮前のネパール・インターナショナル・クリニックに行く。診療室の丸椅子に座っていると、凄い! 今迄見た内の最高の香るような美人が前に座った。フランス人だと言う。“A型ですか? B型ですか?” “えー、ガンマー・プロバリン” “期間はどのくらいご希望?”



(パキスタン北部)

“えーと、三ヶ月ほど”。すごく優しい。“じゃ、そのベッドに寝て、おヒップを出してくださいね” “えー？ 恥ずかしい！” あの一、日本では腕にしたんですけど” “2～3 mgまでは腕でいいんですけどね、3ヶ月ですと4 mgですからおヒップですよ。痛くありませんからネ” 注射器も日本製の新品である。柔らかい指の感触の後、あー、痛エー！ ヒヤ汗は何の汗だったのだろう。会計する間、勤務を終えたその美人はジーパンにヘルメットをかぶり、バイクに跨がって颯爽と門を出て行った。カッコいい！ 看護婦さんだという。1.080Rs (¥1,700)、札幌では3 mgで¥7,800もする。

(2) 憧れのペシャワール

●イスラムの佳い町

5/25. カトマンズからカラチ行きへチェックインしたが“自由席”だと言う。えー？ 国際線なのに？ 出発1時間前で待合室はガラ空き、30人もいのだろうか。これなら自由席でもいいわけだが、PIAオフィスでの“満席”“ウェイティング”“プッシュ&確保”などは一体何事だったのか。12時発、機内放送の後にイスラムの「神に旅の加護を求める祈り」が入る。通常3時間の所、時間表外のバンコク経由で正味8時間半、夜21時半にカラチに着く。PIA手配で近くのエアポート・ホテルの古い部屋をあてがわれた。車も人も少なく随分、静かだ。最近の暴動のせいかも。

5/26. ここから首都イスラマバードへは寄らずにペシャワール経由でチトラルに入り、ギルギットへ抜けようと思う。空港待合室の一画には綱で困った簡易礼拝場があり、パイロットやクルー、職員などが適宜現れてメッカに向かって何度も立ったり座ったりお祈りする。大変だなあ1日5回も、しかし五体投地と比べるとラクだろうナ、と思ったりする。6時発、広大な褐色の大地の奥に、すぐアフガン国境の丘陵地帯が見える。ラホールに寄り10時、憧れのペシャワールに着く。

取り敢えずディーンズ・ホテル（朝食付・税込、1,400Rs=¥3,600）。名は通っていてスイートだが古ボケており、英語のメニューが判らないコック長。禁酒国ゆえリカー・パーミットが必要だが、このホテルでは発行を止めたと言うし、酒類提供もない。この街最高のパール・コンチネンタル・ホ

▼スワートの山なみ



テル（この1カ所だけ）の5階のバーで申請して許可をもらう。（税務署の代行）。Religion（宗教）と現在の所有数を書く欄がある。本来はこのバーか自分の部屋だけが指定飲酒所らしいが、持ち出せてもらう。有効期限は1ヶ月である。以前は1ヶ月以上の滞在者は外国人登録と滞在（居住）許可証が必要とされていたが、3ヶ月ビザがあればその必要はない。帰りにハイパー・バザールをふらついて道端の食堂に入る。大きい鍋を覗いて幾つか注文する。美味しくて安く、36Rs (¥100)で満腹だ。

翌日、目抜き通りのビジネス・ホテル風のグリーンズ・ホテルに移る。ずーっと良くて770Rs (¥2,150)。このホテルに中華レストランがあり、ネパールやインドの中国料理とは違って本格的で実においしい。そして女性隔離傾向のこの国で、マネジャーも3人のウェイトレスも女性中国人で愛想がよい。おまけにビールが飲める！ ホテル内の旅行会社でチトラル事情（ツアー費用＝ジープ、賃金；テント類レンタル事情；換金事情＝カード払いやキャッシング）を入手すべく努めるがサッパリだ。PIAでチケット手配。北辺行きのオフィスは、なぜか大きい建物の裏手の小さい別室だ。チトラルには1日3便あるが2～3日後になると言う。

●スワートの山を見に

5/28. 車の日帰りで北（東）のスワートへ行く。車の80%は日本製である。舗装道路に緑の並木が美しい。第一印象としてのパキстанは、ネパールやインドよりズーッと豊かな感じがする。道路、車、家、商店、服装がきれいで乞食や物乞いが見当たらない。ただ男ばかりで、みな同じ服装に同じ鼻髭をしていて異様な感じがする。2時

間のタカトバイ、ガンダーラ山岳寺院遺跡に登る。崩壊した城の陰でガイド少年が仏像のカケラを盛んに売り付ける。初め1,000Rs (¥2,800) からお終いに50Rs (¥140) というニセ物だ。マカラ峠を越え、スワート川に沿って北上、チトラル分岐からやがて流域が一層開けて絵のように美しく、その奥にファラクサールなど白いスワート連山が見える。なるべく山に近づこうと、運ちゃんをおだてたりチップを暗示したり、15時まで粘る。上部の谷を詰めるには1泊2日かかり、カラム（最終ロッジ）から先は16時以降入域危険と言う。

5/29. パキでAmexがよく利くと言われていたのだが、この街で銀行を3軒回ってようやくVISAだけキャッシングできるMashreq Bankを見つけた。しかし既に利用限界あり、ここで「チトラルではカードもT/Cもダメ、ドル（現金）もどうか?」と言われて諦め、イスラマバードへ飛ぶことにした。\$30 (¥2,500)。

(3)イスラマバードへ移る

●準備終了!

5/30. サンドゥシャリフ経由1時間でイスラマバード。ゴミ一つない広い道路、豊かな緑、洗練された都市を伺わせる。しかしインドやネパールに慣れた僕には何故かヨソヨソしくクールだ。空港タクシーの運ちゃんに従いBest Regency G. H (750Rs=¥2,100) に泊まる。翌日、H A J キンヤンキッシュ隊の飛田、寺沢さんの予定を調べにシルク・ロード・ツアーを訪れる。彼等はナンガ・パルバートの6830mPK (チョンラ・ピーク?) にキンヤンのための順化登山に出掛けており、ご主人の督永忠子さんも同行したとの事。カラチ大学学生の元気な娘さんが留守番をしていた。トレッキング諸項目の費用の相場を打診してみると（未確定ながら）そう高くもなさそうなので帰りを待つことにした。泊まったゲストハウスの部屋は従業員室の前にあり、夜は皿を洗う音、早朝も騒々しくて寝ていれず、翌日隣のShalton G.Hに同じ条件で移った。

ここでもリカー・パーミットの取り直し。場所はアユブ・マーケット裏でAdministration Space (area)、住所はF-8. Almarkaz (アルマルカツ)、ビルはD.C.Office、オフィスはExcise & T-



axation Office (物品税徴収事務所)、電話は261542、でとかく判り難く、近くで聞いても皆親切でいい加減に答えるから、なおおかしくなる。そして購入するのは離れたMarriott Hotel (マリオット・ホテル) の右側の裏口の門を入ったPermit Room、何か罪悪感を強いられるが怯んでは買えない。しかも35度(Max)の暑い中、ビールは横流しらしく正攻法ではまず手に入らない。せいぜい食品店で売っている“ノン・アルコール・ビール”にウィスキーやウォッカを入れて我慢して飲むことになる。

6/2. キンヤン隊が戻って本格的準備に入り、併せて岩崎洋、今村裕隆さんらの日本HK登山隊(ティリチミール)も同宿していて賑やかになる。ナジール・サビル氏(-Exp.)には連絡が取れなかったし(移転)、督永女史に仮計画で再度見積りして貰うと、こちらの懐具合も勘案して妥当な線を出してくれた(ような)のでそのまま決めた。ジープはチャーターとして運転手込み1,100Rs/Day.ガイドは\$25(コック兼)~\$30/Day、装備レンタル(テント、シュラフ、炊事具など)300Rs、食料購入費実費という具合である。ガイドは必要な部分だけとした。なお、この家の門(針金を回してある)を黙って開けると大きい飼犬に襲われる恐れがあるので要注意、判りにくいけど門柱の小さな窪みの奥のベルを押して待つこと。2~3度泥棒に入られた処置らしい。

(4)ナンガ・パルバートの懐へ

●カラコルムへ向けて

20日間の予定の交通費は、イスラマバード〜クンジェラブ峠〜ギルギットまでバス、その後ギルギット〜ナンガ〜チトラルをジープにすると約12

万円、全部ジープだと約17万円程になり、結局荷物を考えて後者にした。生活臭プンプンのライダー（ジュマ）バザールをひやかし、キャッシングし、酒類を仕入れて準備OK。

6/4. シルクロード前で朝5時、先発のティリチミール隊を送り、キンヤンの飛田隊長に送られてスタート。すぐオープン・ジープなのに気付く車屋に寄ってワゴン車に変えようとしたがオープンばかり、せめて幌を完全にさせて出発。カラコルム・ハイウェイを、やがてカガン・バレーの白い山を見ながら走る。峠を越え、インダス川に下る岩山道路でオーバーハングと土砂崩れ跡がアチコチにあり、ハイウェイとは印象違いだ。そのせいか車のクラッチ不調、やっとバシヤムの修理屋に寄る。だから最初に十分点検するように注意したじゃない！ここに泊まるか、このポンコツ車を捨ててジープを変えて予定のチラスまで行くか考えたが、1時間半で部品交換に成功した。夜の急行ドライブで21時40分チラス、新しいパノラマ・ホテル（580RS=¥1,500）。

●“お伽”のメルヘン・ヴィーゼ

6/5. すぐにライコット橋、ここからタート村までは橋麓のホテル・チェーンのオーナーが建設した名だたる悪路で、ジープも運ちゃんも“専用”に交替する。崖の途中を、やっとジープが通れるだけ削った狭い堀削道路だから、上は尾根ギリギリのオーバーハングあり、下は谷底まで崖下300m一直線、助手席に乗るとカーブの度に道路をはみ出し谷底に乗り出して、思わず手摺を握り締め肘を突っ張り、体は運転手に傾く。息も止まる。コックのアリ君はカン高い早口で運ちゃんに話しかける。こら、喋るな、気を紛らすな！あ、ワダチだからハンドルを切るな！あ、こんな所でマッチで（煙草に）火つけんでもいいだろ！あー、ジープが墜ちてもオレだけは助かるように！だが谷底を見るとゾーとして“もうダメだ、助かる筈がないだろう！”“諦めろ！もう61歳だろ。それとも長生きして老人病院のベッドで、皆に喜ばれながら死にたいとでも言うのか”。このポンコツ・ジープにこんなに祈りを捧げるとは。

「27ページに続く」

東京新聞の本

登山のオールラウンド情報誌



毎月15日発売(日・祝日の場合は前日) 定価670円

■本誌の年間購読ご案内

本誌の購読は、全国の書店、東京新聞販売店、中日新聞販売店、北陸中日新聞販売店で承ります。

直接購読ご希望の方は、とじ込みの振替用紙に「岳人何月号」からとお書きのうえ、送り先郵便番号、住所、氏名を明記して、ご送金ください。

郵送料は通常号116円、特大号124円です。年間購読料は8,480円で送料は当社負担です。お求めの本誌に乱丁、落丁がありましたらお取り替えいたします。

■第1特集

- 1月号★アイゼン、輪かん、スキータイプ別雪山山行
- 2月号 自然案内人と山を歩こう 山をもっと味わうために
- 3月号★全興集合ノ山スキーフリーク
- 4月号 自然の源・針葉樹と広葉樹、照葉樹の森を歩く
- 5月号★GWに楽しむ山 雪後・新緑そして花の山
- 6月号 北海道の山と人 日高、大雪、知床をめくって
- 7月号★眺者がつくる夏山プラン ファミリー賛歌
- 8月号 湿原の山旅 地図で探したっておきの池満
- 9月号 私の好きな山小屋 近郊の山から北アルプスまで
- 10月号★HOW TO 紅葉の山を味わう 撮る、描く、遊ぶ
- 11月号 ローカル線の山旅 徹底ガイド付き
- 12月号 実践ノ雪山へのいざない (入門編)

(★は特大号となります)

■特別企画

- 1月号 「僕でも登れる？」 —冬ハケ岳を楽しむ
- 2月号 「僕でも登れる？」 —アイスクライミングに挑戦
- 3月号 「僕でも登れる？」 —尾瀬で山岳スキーに開眼
- 4月号 「僕でも登れる？」 —これぞ岳人ノ春雪の西穂高岳へ(12回完結)
- 5月号 「アルプス・ツェルマット研究」
- 6月号 「モンブラン一周トレッキング」
- 7月号 「花のアルプス・ハイキング」
- 8月号 「ドロマテの岩塔に遊ぶ」
- 9月号 「南米ロライマ山にロストワールドを訪ねる」
- 10月号 「ニュージーランド——手付かずの自然を楽しむ」
- 11月号 「海外トレックの王道・エベレスト街道に行く」
- 12月号 「冬の北米、アウトドアライフ最新事情」

東京新聞出版局(中日新聞) 千108 東京都港区港南2-3-13 ☎(03)3740-2674
書店で発売中。中日新聞販売店でも取りつぎます。

地域ニュース

《ネパール》

ブラック・スプリングのその後

ノヴァ：前回のインタビューであなたは、「アタックの途中で遺体となった友人達のそばを通ることになるが、それは自分達にとって非常に辛いものになるだろう」とおっしゃいましたね。実際にその地点を通過した時、どうでしたか？

デイヴ：スコットのそばを通り過ぎた時は、ヘッドランプの明かりで彼を見つけました。遺体の半分は雪に埋もれており、幸いにも顔は隠れていました。何があったかは我々は想像できなかったけれども、唯一明らかなのは、吹きさらしの場所で彼が死に至ったということです。とても荒涼とした場所にポツンと置かれた彼の遺体を、我々は正視することはできませんでした。

ロブの遺体は、我々が予想していた通りもっと上方の、南峰を越えた所にありました。ロブに関しては、死に至るまで生き延びようと努力した形跡がありました。彼の遺体の回りには、風除けの為でしょう、沢山の空の酸素ボンベが置かれていました。また、足先が凍えないように、アイゼンも外されていました。ありがたいことに、スコットと同様、ロブも顔が雪に被われていました。彼の遺体は正確にルート上にありました。さぞかし、孤独だっただろう。我々はこみ上げる悲しみを抑えることができませんでした。彼のいた場所は、救いの手を差し伸べることのできる距離をはるかに越えていました。それに比べて、スコットはもっとキャンプに近い場所で、あと1時間ががんばって歩くことができれば、キャンプにたどりつくことができたでしょう。ロブの状況はどこから見ても絶望的でした。彼ら2人をすっかり雪が埋めてくれるよう、祈るばかりです。ロブは、優れたクライマーであっただけでなく、自分の命を最後まで守ろうとした勇敢なファイターでもありました。彼は正しい行動をとり続け、そして死に至りました。しかし、ロブ・ホールであろうが、誰である

うが、あの暴風雪の中では生き延びることはできなかったでしょう。

エヴェレストでの1時間は100マイルに相当します。今回亡くなった人々の何人かはキャンプからたったの100フィート離れた所まで迫っていたんですよ。視界が利かず、暴風雪が吹き荒れ、暗闇という状態、しかもあのような高所でそのような悪条件の中での行動は、例えキャンプまであと10分位の距離であってもとても危険なものとなります。

トピックス

平成8年度理事会報告

日時 5月25日(土) 10時～12時30分

場所 HAJ事務所

出席者 遠藤登会長、理事：稲田定重、山森欣一、小島守夫、八木原絬明、名塚秀二、尾形好雄、中川裕（以上本人出席7名）阿部淳、大内論文、八嶋寛、植松秀之、沖允人、酒井國光、寺沢玲子、関根幸次、林雅樹、南勲（以上委任10名）理事18名中17名出席。定足数は12名なので成立。

議事 稲田理事長が議長となって以下の議案について審議した。

- 1) 第一号議案：平成7年度事業報告並びに収支決算報告について（承認）
- 2) 議案第二号：平成8年度事業計画並びに収支予算について（承認）
- 3) 議案第三号：役員の変更について（承認）
- 4) 議案第四号：会員の入会並びに除名について（承認）
- 5) その他：基本財産会計の削除による定款の一部改正について（承認）

・創立30周年記念の執行について、理事長から提案のあった具体策も含めて、式典（八木原）、出版（山森）、野外（尾形）の三分野を実施する。特に式典は1998年1月24日～25日に決定。

・財政基盤強化のため、新規会員の獲得に全力を挙げて取り組み当面1500人を目指す。また、終身会員への移行をお願いして当面の専従者費用に充

てる。

・関東在住会員の中から、適任者に副会長に就任していただくよう、選任と交渉を常務理事会に一任する。

平成8年度臨時理事会

日時 5月25日(土) 14時～14時15分

場所 かんぽヘルスプラザ東京

出席者 遠藤登会長、

理事・稲田定重、山森欣一、八木原罔明、尾形好雄、名塚秀二、中川裕、古関正雄、野沢井歩(以上本人出席8名) 大内倫文、八嶋寛、植松秀之、酒井國光、寺沢玲子、林雅樹、南勲(以上委任状7名) 理事17名中15名出席。成立。

議事 稲田定重が議長となり以下について審議した。

1) 第一号議案：専務理事、常務理事の互選について(別紙のとおり承認)

2) 第二号議案：日常業務処理のため、特に定めるもの以外は、権限を常務理事会に委任する。

Books

ブロード・ピーク登頂

ブロード・ピークのノーマル・ルートから登頂を果たした、わらじの仲間の関根幸次さん率いる登山隊の報告書。

カラコルムでもっとも人気のあるルートでは、「氷を削るとその中からは、テントの残骸やら空缶・EPIボンベなど様々なゴミが出てきた」り、テントを外国隊に使用されて、食糧やガスなども使われるなど、山では起きてはならないことが、現実に起きている。

また、前峰を頂上だ、と主張する現地HPに屈せず、に本当の頂上を踏んだ田村隊員は52才だった。

関根隊長のあいさつには、様々な問題があったことをうかがわせる言葉が並んでいる。登頂成功がそういう問題を覆い隠してしまったようだが、考えさせられる報告書である。

B5版 28ページ

〒133 江戸川区西小岩3-30-5 伊藤守方

ヒマラヤから

アッサラ・アレクン！お元気ですか？

出発に際しましては、有難うございました。お陰さまで目指す頂き、ウルタルII峰を見上げられる“フンザ”の街、アリアバードまで来ております。荒涼としたカラコルムの中で、緑多い爽やかな街で最終梱包を進めております。

雲間に覗く上部岩壁は例年に比べ、やや積雪が多いようです。南西にはラカポシが真白に眺められます。明後日、キャラバンスタート地、シャバートに向かいます。それでは、又、お元気で。

1996.6.5 ウルタルII登山隊 星野龍史

アッサラーム！

出発の際には、いろいろお世話になり、ありがとうございました。

イスラマバードについて、いきなりエゾンが怪我のため急きょ変ったことを伝えられ、支給装備などで一時はどうなることかと思いましたが、何とかクリアーでき、明日スカルドへ向い出発します。

この先まだまだ、いろいろあると思いますが、3人力合せて頑張ってきます。

1996.6.8 ラワルピンディにて 林 雅樹

東京集会のお知らせ

日時 7月22日(月) 午後7時

暑気払いとします。

場所 HAJルーム(地下鉄有楽町線東池袋下車4番出口から地上に出て右へ徒歩2分)
又は、JR大塚駅下車、都電荒川線の早稲田方面2つ目の東池袋4丁目下車、前方で右に折れて地下鉄出口から徒歩2分)

■財政支援金： 遠藤登15万円、大西保3万円、金保國1万円、森谷雅春5千円、伊藤哲朗2千円

■事務局休み： 7月24日～31日 山森専務理事がネパールへ出かけるため休みとなります。

平成8年度

日本ヒマラヤ協会通常総会報告

日時 平成8年5月25日(土)13時5分～55分
会場 かんぽヘルスプラザ東京
出席者 本人出席：遠藤登会長、稲田定重、山森欣一、小島守夫、八木原罔明、尾形好雄、名塚秀二、中川裕(以上理事) 国沢鎮雄(高知)、石川龍彦(兵庫)、西尾謙市郎(大阪)、鈴木正典(山形)、品川幸彦(群馬)、中村保、小室豊、鈴木雄一、森山安次、大久保博、北條治男(以上東京)、古関正雄、野沢井歩(以上神奈川)

定足数 以上本人出席21名、委任状提出者259名。
の確認 合計280名。

定款第25条の規定により会員現在数の3分の1以上の出席により成立。現在の会員総数は802名で定足数は267名。よって総会は成立。

総会次第

1) 開会

尾形常務理事の司会で定刻より5分遅れて開会。定款の定めるところにより、議長には稲田理事長があたり、議事録署名人に古関正雄、鈴木正典両氏を選んで議事に入った。

2) 議事

議案各号について山森専務理事より説明がなされ質疑に入った。

1 第一号議案 平成7年度事業報告について

2 第二号議案 平成7年度収支決算及び財産目録の報告について

収支決算報告に伴い中岡監事から提出された監査報告書が読み上げられ、適正な収支報告である旨の監査報告であった。

以上、別紙報告の両議案とも異議なく承認された。

3 第三号議案 平成8年度事業計画について

4 第四号議案 平成8年度収支予算について

以上、別紙報告の両議案とも異議なく承認された。

5 第五号議案 役員の改選について

理事会から推薦された別紙名簿について、理事、監事、評議員について異議なく承認された。

6 第六号議案 会員の除名について

定款第8条に従って、再三の督促にもかかわらず会費美囊の27名が除名対象者として提案され承認された。

7 第七号議案 定款の一部変更について

[平成7年度の理事会において、現在定款に定められている基本財産会計は、社団法人を指すために設けられたものであるが、現在は会運営に使われており、会の実態を正しく表すため、平成8年度からこの会計を無くし、終身会費は一般会計に計上することが決定された。]

従って基本財産について規定している、定款第30条から32条までを抹消し、定款第33条以下を第30条からに繰り上げる。旨の提案があり、異議なく承認された。

8 その他、理事会報告

山森専務理事から、総会に先だって開催された理事会の報告がなされた。

創立30周年記念は、式典(八木原)、出版(山森)、野外(尾形)が担当して検討しているが、理事長からも具体的な提案もあり、さらに検討協議して進める。尚、記念式典の日取りは、98年1月24日(土)と25日(日)に決定しましたので、予定を入れないようお願いしたい。

会の運営資金の調達方法については、現在の会費でカバーできるのは、専従者の人件費を除いた諸経費だけであり、このままでは、世代交代もままならないので、「会員拡大」をベースに、当面終身会員への移行を積極的に奨めたいと、呼び掛けられた。会員目標は1500名。

また、関東在住の会員から適任者に副会長に就任していただくことになり、常務理事会に一任された旨報告があった。

以上をもって全ての議案審議を終え、遠藤登

会長の挨拶があった後、平成8年度の通常総会は終了した。

平成7年度事業報告書

自 平成7年4月1日

至 平成8年3月31日

I. 定款第4条第1項にもとづく事業（ヒマラヤに関する総合的な資料と情報の収集・整理・保存及び、それらの利用希望者に対する便宜供与）

1. 情報管理事業

1) 会員内外に対する情報提供とトレッキング・踏査・登山計画の企画・研究等の指導。
年間300件を越す電話による問い合わせと50件を越える事務所への来訪者へ情報提供と指導を実施した。報道各社の照会が増加した。

2) 文献・資料のレファレンスサービス
一般的に入手しづらいものに限定してサービスを実施した。ヒマラヤ諸国の登山規則・地図・登山記録・登頂者記録等に関する希望者が多い。

2. 日本ヒマラヤ研究所設置事業
情報管理態勢について各団体との連携について検討した。

II. 定款第4条第2項にもとづく事業（登山をはじめとする野外活動と関連する諸分野に関する研究活動と成果の公表）

1. 調査研究事業

1) 高所登山における事故防止に関する調査研究

続発する高所登山の事故を分析し、事故防止のために研究成果を「インドヒマラヤ会議」、「事故と環境対策研修会」を通して発表した。

又、ヒマラヤにおける日本隊の死亡事故は、1968年から28年間連続して発生し、95年11月にはネパールでトレッキング隊が雪崩のため大量遭難するなど一般の関心が高まり、各報道機関から照会が相次いだ。このため報道機関に「ヒマラヤ登山 日本隊遭難の記録」を各社に紹介・販売した。

2) 高所登山に対する意識調査
今後の調査事項・方法について検討した。

3) 山岳の自然環境を汚染しないで実施する登山・踏査活動の研究
各国の実践例について収集した。

2. 出版事業（研究・報告）

1) ルンポ・カンリ（4月）
葱嶺の白き父なる山ヌン（10月）
玉虚峰に登る（2月）
2) 各登山隊報告書の発行準備
3) 「ヒマラヤ」英文ダイジェスト版の発行準備

3. 関連学術事業

興味ある地域について調査した。

III. 定款第4条第3項にもとづく事業（ヒマラヤへの登山をはじめとする野外活動・研究・調査等の団体の派遣）

1. 高所登山事業

1) キンヤン・キッシュ（7,852m）登山隊の派遣

6月12日～8月27日に飛田和夫隊長以下4名を派遣したが、8月4日に東壁の6,700mに到達したが登頂を断念した。

2) サマー・キャンプ、ヌン（7,135m）登山隊の派遣

7月23日～8月27日に酒井國光隊長以下11名を派遣し、8月16日中川裕登攀隊長、中島清治、阿部諒二、中島俊弥の各隊員が西稜から登頂した。

3) 直轄プロジェクトの推進

イ) 平成8年度サマー・キャンプ「ヌン（7,123m）登山」

夏の登山実施に向けて本格的に隊員を募集したが、応募者が少なく中止した。

ロ) 平成8年度サマー・キャンプ「ムスターグ・アタ（7,546m）登山」

夏の登山実施に向けて本格的に隊を構成（中川裕隊長以下6名）した。

ハ) 平成8年度サマー・キャンプ「ユイチュ（6,179m）登山」

夏の登山実施に向けて本格的に隊員

を募集したが、応募者が少なく中止した。

ニ) サガルマータ (8,848m) 登山

創立30周年記念行事の一環を目指して実施に向けて隊員決定を行ったが、ネパール政府の急激な規則改正により、費用が高騰したため7月15日中止を決定した。

ホ) 日中合同ヤンラ・カンリ (7,429m) 登山
日中友好ラブチュ・カン (7,367m) 初登頂10周年を記念して、チベット登山協会と合同して、ネパール国境にあるヤンラ・カンリ (ガネッシュ・ヒマール I) 登山を実施すべく、渉外を行い隊員を募集した。

4) 登山許可申請と取得

魅力あるヒマラヤの高峰について、各国に対して前年に引き続き許可申請を行った。

2. 野外活動事業

1) ヒマラヤ各国の魅力ある地域への踏査、トレッキング隊の派遣について企画準備を行った。

IV. 定款第4条第4項に基づく事業 (機関誌、その他の刊行物、登山・野外活動、研修・各種の会合によるこの分野の健全な発達を図るための指導・啓蒙活動)

1. 機関誌発行业

「ヒマラヤ」281号～292号を毎月発行した。(毎号24～28ページ)

2. 出版事業

1) 「中国登山の手引き・第4版」の発行準備を行った。

2) 「ヒマラヤ教本」の発行準備を行った。

3. 指導・啓蒙事業

1) 日本ヒマラヤ会議の開催

各地の条件が整わず開催出来なかった。

2) 地域ヒマラヤ集会の開催

東京で毎月開催したが、その他の地域では条件が整わず開催できなかった。

3) 第17回「インド・ヒマラヤ会議」の開催

1月26日～27日群馬県山岳連盟と共催

して前橋市にて開催した。平成7年度隊の報告と平成8年度隊の情報交換を行った。参加者72名。

4) 第2回「高所登山 事故と環境対策研修会」の開催

4月2日東京で開催。高所医学、雪崩対策、テイクイン、テイクアウトについて研修を行った。参加者60名。

5) 公式報告会

東京で実施。ヌン (9月)、キンヤン・キッシュ (10月)

6) 壮行会

計画発表と地域情報の伝達。キンヤン・キッシュ (5月)、ヌン (7月)

V. 定款第4条第5項にもとづく事業 (その他、前条の目的を達成するために必要と認める事業)

1. 国際交流事業

1) 外国代表の招請

特に実施しなかった。

2) 代表の派遣

イ) 中国登山協会とチベット登山協会の共催により、ラサで開催された「ヒマラヤ登山国際シンポジウム」に山森専務理事を派遣した。(5月19日～25日)

ロ) ソウルで開催された韓国ヒマラヤン・クラブの年次晩餐会に山森専務理事を派遣した。(12月12日～13日)

3) 各ヒマラヤ諸国の関係者との交流

イ) 中国登山協会張江援交流部長と懇談 (7月、東京)

ロ) 元インド、ITBPフカム・シン氏サヨナラパーティ (3月、東京)

ハ) 中国登山協会顔金安副主席を団長とする代表団の歓迎会 (3月、東京)

2. 国内関係団体との協調

イ) 日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラストと協調して、ヒマラヤの環境保護啓蒙活動を実施した。

ロ) 日山協、JAC、労山と協調して「グラブツ突然破壊問題」について継続して協議し、シンポジウムの開催準備を行った。

- ハ) 大阪府山岳連盟と大韓山岳連盟の共催による「第一回日韓岳人シンポジウム」に山森専務理事を派遣した。(4月)
- ニ) その他、日山協等と協力・情報交換を行った。

3. 組織の整備

専従一人態勢となり、会員事務、機関誌発行事務にほとんどの時間がさかれ、これまでのような情報収集・整理、将来展望などに時間がとれなくなっている。

4. 遭難事故の処理

1994年9月に遭難したミニヤ・コンカ登山隊の事故処理を行った。

- イ) 4月16日札幌にて合同追悼会を実施。参加者約200名。
- ロ) 5月19日～25日家族の現地訪問(成都)を実施した。
- ハ) 5月28日事故反省会。
- ニ) 9月17日渡辺靖之隊員葬儀。
- ホ) 報告書の発行準備を行った。

II、基本財産会計

(収入の部) (単位:円)

勘定科目	予算額	決算額	増・減(△)
運用利息	50,000	0	△ 50,000
終身会費収入	1,500,000	0	△ 1,500,000
前期繰越	12,106,112	12,106,112	0
合計	13,656,112	12,106,112	△ 1,550,000

(支出の部) (単位:円)

勘定科目	予算額	決算額	増・減(△)
一般会計繰り入れ	0	12,106,112	12,106,112
次期繰越	13,656,112	0	△13,656,112
合計	13,656,112	12,106,112	△ 1,550,000

III、ヒマラヤ研究所会計

(収入の部) (単位:円)

勘定科目	予算額	決算額	増・減(△)
調査研究収入	5,000,000	0	△ 5,000,000
合計	5,000,000	0	△ 5,000,000

(支出の部) (単位:円)

勘定科目	予算額	決算額	増・減(△)
管理費	4,000,000	0	△ 4,000,000
調査費	1,000,000	0	△ 1,000,000
合計	5,000,000	0	△ 5,000,000

平成7年度収支決算書

自 平成7年4月1日

至 平成8年3月31日

I. 一般会計

(収入の部) (単位:円)

勘定科目		予算額	決算額	増・減(△)
大科目	中科目			
入会金収入		(500,000)	(280,000)	(△ 220,000)
	入会金収入	500,000	280,000	△ 220,000
会費収入		(6,000,000)	(7,682,000)	(1,682,000)
	通常会員会費	6,000,000	5,382,000	△ 618,000
	終身会員会費	-	2,300,000	2,300,000
事業収入		(8,000,000)	(9,015,981)	(1,015,981)
	野外活動事業	0	0	0
	高所登山事業	6,500,000	6,717,133	217,133
	指導啓蒙事業	200,000	597,000	397,000
	機関誌発行事業	800,000	860,878	60,878
	出版事業	500,000	540,970	40,970
	国際交流事業	0	300,000	300,000
雑収入		(150,000)	(750,722)	(600,722)
	受取利息収入	2,000	41,870	39,870
	その他雑収入	148,000	708,852	560,852
前期繰越		(△ 19,556,884)	(△19,556,884)	(0)
	前期繰越	△ 19,556,884	△19,556,884	0
事故収入		(1,500,000)	(2,906,000)	(1,406,000)
	受取保険金	1,500,000	1,500,000	
	その他収入	0	1,406,000	1,406,000
前期修正益		(0)	(12,106,112)	(12,106,112)
	基本財産繰越	0	12,106,112	12,106,112
合計		△ 3,406,884	13,183,531	16,590,815

(支出の部) (単位:円)

勘定科目		予算額	決算額	増・減(△)
大科目	中科目			
管理費		(8,670,000)	(8,297,790)	(△ 372,210)
	給料手当	5,000,000	4,827,900	△ 172,100
	旅費交通費	0	0	0
	通信運搬費	400,000	358,050	△ 41,950
	電話	300,000	258,048	△ 41,952
	消耗品・文具費	100,000	39,097	△ 60,903
	宮繕備品費	0	0	0
	印刷製本費	700,000	739,785	39,785
	図書費	50,000	66,137	16,137
	貸借料	1,650,000	1,630,000	△ 20,000
	光熱水費	150,000	155,323	5,323
	会議費	20,000	19,261	730
	広報費	200,000	149,556	△ 50,444
	雑費	100,000	54,633	△ 45,367
事業費		(8,850,000)	(8,052,397)	(△ 797,603)
	野外活動事業	0	0	0
	高所登山事業	5,000,000	3,604,172	△ 1,395,828
	指導啓蒙事業	150,000	640,544	490,544
	機関誌発行事業	3,000,000	2,802,318	△ 197,682
	出版事業	500,000	692,920	192,920
	国際交流事業	200,000	312,443	112,443
その他事業	0	0	0	
特別支出		(3,000,000)	(3,931,783)	(931,783)
	事故処理費	3,000,000	3,931,783	931,783
次期繰越		(△23,926,884)	(△ 7,098,039)	(16,828,845)
合計		△ 3,406,884	13,183,931	16,590,815

V. 財産目録

(平成8年3月31日現在、単位：円)

種 別	摘 要	金 額
1. 現 金	手 許 現 金	(53,897) 53,897
2. 普通預金	東京三菱銀行新宿支店Na4455421 第一勧業銀行高田馬場支店Na1099791 住友信託銀行新宿支店Na5136696 東京三菱銀行新宿中央支店Na558060	(2,864,339) 207,704 2,468,106 166,981 21,548
3. 郵便振替	0 0 1 0 0 - 6 - 4 8 9 5 4	(334,719) 334,719
4. 金 銭 信 託	住友信託銀行新宿支店 157,538 (1,412,286) 167,188 (1,511,720)	(2,964,006) 2,964,006
5. 未 収 金	終身会員申込者未収金	(100,000) 100,000
6. 預け運営基金	地方小出版	(30,000) 30,000
7. 備 品	事務所備品	(200,000) 200,000
8. 登山装備	中国・デボ インド・デボ	(800,000) 600,000 200,000
資産合計		7,346,961
9. 未 払 金	柴 田 金 之 助	(100,000) 100,000
10. 預 り 金	新入会者 5名 サガルマータ記念登山申込金 1名	(345,000) 195,000 150,000
11. 前 受 金	ムスターグ・アタ登山隊	(2,850,000) 2,850,000
12. 借 入 金	柴 田 金 之 助 遠 藤 登 植 松 秀 之 小 島 守 夫 渡 辺 齊 住友信託銀行新宿支店 稲 田 定 重 扱 い	(11,150,000) 2,000,000 150,000 600,000 500,000 300,000 2,600,000 5,000,000
負債合計		14,243,493
差引正味財産		△ 7,098,039

平成8年度事業計画書

自 平成8年4月1日

至 平成9年3月31日

I. 定款第4条第1項にもとづく事業（ヒマラヤに関する総合的な資料と情報の収集・整理・保存及び、それらの利用希望者に対する便宜供与）

1. 情報管理事業

1) 会員内外に対する情報提供と踏査・登山計画の企画・研究等の指導。

2) 文献・資料のレファレンスサービス
一般的に入手しづらいものに限定してサービスを実施する。

2. 日本ヒマラヤ研究所設置事業

21世紀を展望し、日本の各団体の協調による情報管理機構の設立を模索し、それと関連して重複しない分野を見定めて検討する。

II. 定款第4条第2項にもとづく事業（登山をはじめとする野外活動と関連する諸分野に関する研究活動と成果の公表）

1. 調査研究事業

1) 高所登山における事故防止に関する調査研究

2) 高所登山に対する意識調査

3) 山岳の自然環境を汚染しないで実施する登山・踏査活動の研究

2. 出版事業（研究・報告）

1) 「八千メートル峰日本人の記録」の発行

2) 「ミニヤ・コンカ」の発行（4月）

3) 「ムスターグ・アタ」の発行（8月）

3. 関連学術事業

興味ある地域への派遣準備

III. 定款第4条第3項にもとづく事業（ヒマラヤへの登山をはじめとする野外活動・研究・調査等の団体の派遣）

1. 高所登山事業

1) サマー・キャンプ「ムスターグ・アタ（7,546m）登山隊の派遣

7月20日～8月25日中川裕隊長以下6名を派遣。

2) 直轄プロジェクトの推進

イ) 平成9年度サマー・キャンプ「ヌン

(7,135m) 登山」

夏の登山実施に向けて隊を構成する。

ロ) 平成9年度「女性ムスターグ・アタ
(7,546m) 登山」

夏の登山実施に向けて隊を構成する。

ハ) 平成9年度「ユイチュ(6,179m) 登山
夏の登山に向けて隊を構成する。

ニ) 日中合同ヤンラ・カンリ(7,429m) 登山

ラブチュ・カン初登頂10周年を記念してチベット登山協会と合同して、ネパールとの国境にあるヤンラ・カンリに登山隊を派遣する。

4) 登山計画の策定と許可申請及び取得

我国の昨今の高所登山分野での現状を分析しつつ、登山の大衆化の分野の声に応えと共に、一方の柱となる未知と困難への挑戦の分野の育成を念頭においた魅力あるヒマラヤの高峰について、企画立案を行いそれぞれの国に対して前年に引き続き登山許可申請を行いこれの取得を行う。

2. 野外活動事業

1) 会員の要望を調査し、ヒマラヤ各国の魅力ある地域踏査隊の派遣を企画立案する。

IV. 定款第4条第4項に基づく事業（機関誌、その他の刊行物、登山・野外活動、研修・各種の会合によるこの分野の健全な発達を図るための指導・啓蒙活動）

1. 機関誌発行业

「ヒマラヤ」293～304号を毎月発行する。
(毎号24～28ページ)

2. 出版事業

- 1) 「中国登山の手引き・第4版」の発行
- 2) 「30周年記念誌」の発行準備
- 3) 「ヒマラヤ教本」の発行準備

3. 指導・啓蒙事業

- 1) 日本ヒマラヤ会議の開催
各理事・評議員と協議し、条件が整い次第随時開催する。
- 2) 地域集会・定例集会の開催
東京（毎月）、各地域評議員と協議して

随時開催する。

3) 第18回「インド・ヒマラヤ会議」の開催
平成8年度隊報告と、9年度計画隊の情報交換。

4) 第3回「高所登山 事故と環境対策研修会」の開催

5) 第4回「中国登山研究会」の開催

6) 公式報告会

東京にて実施する。

7) 家族会と壮行会

各登山隊について実施する。

V. 定款第4条第5項にもとづく事業（その他、前条の目的を達成するために必要と認める事業）

1. 国際交流事業

1) 外国代表の招請

渉外上必要と認められる代表について慎重に検討し随時招請する。

2) 代表の派遣

イ) 大阪府山岳連盟と大韓山岳連盟の共催により、韓国・釜山にて開催される「第2回日韓岳人シンポジウム」に山森専務理事を派遣する。(5月30日～6月2日)

ロ) チベットと合同して実施する「ヤンラ・カンリ」登山の議定と偵察に山森専務理事を派遣する。(8月下旬～9月中旬)

3) 各ヒマラヤ諸国の関係者との交流

来日したヒマラヤ諸国の登山関係者や在日大使館、その他の国の登山者と随時懇談する。

2. 国際関係団体との協調

イ) 日山協、労山、日本山岳会、各岳連、HAT-J、日本登山医学学会その他関係諸団体と事業提携・協力・情報交換を行う。

ロ) プラブーツ懇談会の主催する「プラブーツ突然破壊シンポジウム」の開催に協力する。

ハ) ヒマラヤ登山情報管理、山岳共催、雪崩などの分野について、登山者が一致団結してスケール・メリットを生かせるような機構の設立に協力する。

3. 組織の整備

- 1) 常務理事を中心とした事業分担制の検討。
- 2) 事務局支援態勢の確立。
- 3) 財政強化の対策。
終身会員への移行の推進。
- 4) 新規会員拡大の強化。

4. 30周年記念事業

- 1) 記念式典、祝賀会、展示会の開催。
- 2) 野外活動の実施。
- 3) 記念誌の発行。

5. ミニヤ・コンカ登山隊遭難事故処理

- 1) 報告書発行。
- 2) 鈴木洋介隊員の葬儀。

平成8年度役員名簿

(任期は3年間)

[顧問] 古原和美(長野) 柴田金之助(岐阜)

[会長] 遠藤登(東京)

[副会長] 関東在住会員から適任者を常務理事会にて交渉して決定する。

[理事] 17名。理事長・稲田定重(福島) 専務理事・山森欣一(東京) 常務理事・八木原圀明(群馬) 尾形好雄(東京) 寺沢玲子(埼玉) 中川裕(東京) 野沢井歩(神奈川) 以上常務理事会構成メンバー
理事・大内論文(北海道) 八嶋寛(宮城) 植松秀之(山形) 名塚秀二(群馬) 酒井國光(茨城) 古関正雄(神奈川) 田辺治(愛知) 林雅樹(京都) 南勲(大阪) 名越寛(広島)

[監事] 保坂昭憲(福島) 中岡久(埼玉)

[評議員] 18名。阿部淳・辻野治子(北海道) 松館正義(青森) 丸山芳雄(秋田) 那須宗一・菅原和明(山形) 小島守夫(栃木) 渡辺斉(埼玉) 鈴木雄一・坂上利明・橋本康弘(東京) 上原昭則(山梨) 西嶋鍊太郎(石川) 中村正勝(長野) 大西保(大阪) 今村裕隆(山口) 国沢鎮雄(高知) 下田泰義(長崎)

平成8年度収支予算書

自 平成8年4月1日

至 平成9年3月31日

I. 一般会計

(収入の部)

(単位:円)

勘定科目		予算額	前年度予算額	増・減(△)
大科目	中科目			
入会金収入		(500,000)	(500,000)	(0)
	入会金収入	500,000	500,000	0
会費収入		(9,000,000)	(6,000,000)	(3,000,000)
	通常会員会費	6,000,000	6,000,000	0
	終身会員会費	3,000,000	0	3,000,000
事業収入		(14,500,000)	(8,000,000)	(6,500,000)
	野外活動事業	0	0	0
	高所登山事業	12,800,000	6,500,000	6,300,000
	指導啓蒙事業	200,000	200,000	0
	機関誌発行事業	800,000	800,000	0
	出版事業	500,000	500,000	0
	国際交流事業	200,000	0	200,000
	その他事業	0	0	0
雑収入		(202,000)	(150,000)	(52,000)
	受取利息収入	2,000	2,000	0
	その他雑収入	200,000	148,000	52,000
事故収入		(0)	(1,500,000)	(△1,500,000)
	受取保険金	0	1,500,000	1,500,000
前期繰越		(△ 7,098,039)	(△19,556,884)	(12,458,845)
	前期繰越	△ 7,098,039	△19,556,884	12,458,845
合計		17,103,961	△ 3,406,884	20,510,845

(支出の部)

(単位:円)

勘定科目		予算額	前年度予算額	増・減(△)
大科目	中科目			
管理費		(8,820,000)	(8,670,000)	(150,000)
	給料手当	5,000,000	5,000,000	0
	旅費交通費	0	0	0
	通信運搬費	400,000	400,000	0
	電話費	300,000	300,000	0
	消耗品・文具費	100,000	100,000	0
	営繕備品費	0	0	0
	印刷製本費	700,000	700,000	0
	図書費	50,000	50,000	0
	貸借料	1,800,000	1,650,000	150,000
	光熱水費	150,000	150,000	0
	会議費	20,000	20,000	0
	広報費	200,000	200,000	0
	雑費	100,000	100,000	0
事業費		(16,850,000)	(11,850,000)	(5,000,000)
	野外活動事業	0	0	0
	高所登山事業	11,000,000	5,000,000	6,000,000
	指導啓蒙事業	150,000	150,000	0
	機関誌発行事業	3,000,000	3,000,000	0
	出版事業	500,000	500,000	0
	国際交流事業	200,000	200,000	0
	事故処理費	2,000,000	3,000,000	△ 1,000,000
次期繰越		(△ 8,566,039)	(△23,926,884)	(15,360,845)
	次期繰越	△ 8,566,039	△23,926,884	15,360,845
合計		17,103,961	△ 3,406,884	20,510,845

都道府県別会員数

(平成8年5月25日現在・除名後)

北海道	67(3) [12]	67	三重	9	54
青森	9(1)		和歌山	4	
秋田	9		奈良	3	
岩手	7 [1]		滋賀	6(1)	
宮城	18(3) [1]		京都	16(2)	
山形	26(4)		大阪	29(1) [2]	
福島	26(5) [5]	95	兵庫	23 [1]	81
栃木	18(2) [2]		岡山	3	
群馬	38(12) [7]		広島	10(4) [2]	
茨城	16(2) [1]		鳥取	2	
埼玉	49(10) [9]		島根	1	
千葉	24(5) [4]		山口	5(1) [1]	
神奈川	61(11) [10]	206	香川	3	
東京	166(26) [20]	166	愛媛	1(1)	
山梨	8		徳島	0	
新潟	3		高知	5(1)	30
富山	7 [1]		福岡	26(2)	
石川	11(1) [1]		佐賀	3(1)	
福井	4		大分	5	
長野	23(3)	56	長崎	8(1)	
静岡	7 [1]		熊本	2	
愛知	29(2) [4]		宮崎	3	
岐阜	9(2) [1]		鹿児島	0	
国外 会員	12		沖縄	0	47
			総数	802(109) [86]	

* () 内は終身会員数 [] 内は女性数

* 総数 802名(内、夫婦会員33組) その他に外国会員
12名。

終身会員移行のお願い

本会の円滑な運営を行うためには、専従者を置くことがどうしても必要です。しかしながら、現状の会員数では、一般会費でまかなえる範囲は、機関誌発行費、事務所家賃、水道光熱費、通信費、電話費、印刷費までです。

本会は創立以来29年となり、そろそろ執行部の世代交代の時期を迎えております。ボランティアで専従の任務をお願い出来る人材は望める状況に

年代別会員数

1996年4月30日現在()内は女性

年代 会員No	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	不明
1～100 10(4)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	3(3)	3(0)	2(0)	2(1)
101～200 11(1)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	3(0)	5(0)	2(0)	1(1)
201～300 11(1)	0(0)	0(0)	0(0)	2(0)	3(0)	4(1)	2(0)	0(0)
301～400 21(3)	0(0)	0(0)	0(0)	3(0)	14(0)	3(0)	1(0)	0(0)
401～500 11(2)	0(0)	0(0)	0(0)	4(0)	5(2)	2(0)	0(0)	0(0)
501～600 9(1)	0(0)	0(0)	0(0)	3(0)	3(0)	2(0)	0(0)	1(0)
601～700 17(0)	0(0)	0(0)	0(0)	4(0)	6(0)	5(0)	1(0)	1(0)
701～800 6(1)	0(0)	0(0)	0(0)	4(1)	2(0)	0(0)	0(0)	0(0)
801～900 14(3)	0(0)	0(0)	0(0)	6(1)	7(2)	1(0)	0(0)	0(0)
901～1000 10(4)	0(0)	0(0)	0(0)	1(1)	7(2)	2(1)	0(0)	0(0)
1001～1100 7(0)	0(0)	0(0)	0(0)	2(0)	4(0)	1(0)	0(0)	0(0)
1101～1200 17(2)	0(0)	0(0)	0(0)	12(1)	2(0)	0(0)	2(0)	1(0)
1201～1300 24(2)	0(0)	0(0)	0(0)	18(2)	3(0)	1(0)	0(0)	2(0)
1301～1400 31(3)	0(0)	0(0)	1(0)	17(0)	9(0)	3(0)	0(0)	1(0)
1401～1500 27(2)	0(0)	0(0)	2(1)	16(0)	4(1)	5(0)	0(0)	0(0)
1501～1600 25(1)	0(0)	0(0)	4(1)	15(0)	4(0)	1(0)	0(0)	1(0)
1601～1700 27(1)	0(0)	0(0)	3(0)	16(0)	3(0)	4(1)	0(0)	1(0)
1701～1800 32(2)	0(0)	0(0)	6(0)	18(1)	4(0)	3(1)	0(0)	1(0)
1801～1900 44(7)	0(0)	0(0)	16(3)	11(1)	13(2)	0(0)	0(0)	4(1)
1901～2000 54(9)	0(0)	15(3)	22(5)	9(0)	6(1)	2(0)	0(0)	0(0)
2001～2100 58(5)	0(0)	1(0)	21(1)	18(2)	12(1)	4(0)	0(0)	2(1)
2101～2200 65(7)	0(0)	7(1)	28(3)	13(1)	9(2)	5(0)	3(0)	0(0)
2201～2300 70(6)	0(0)	5(0)	33(5)	15(1)	9(0)	8(0)	0(0)	0(0)
2301～2400 78(5)	0(0)	14(0)	19(2)	31(3)	10(0)	3(0)	1(0)	0(0)
2401～2500 91(8)	0(0)	18(3)	26(3)	21(1)	16(1)	8(0)	2(0)	0(0)
2500～ 28(8)	2(0)	4(0)	7(3)	7(3)	6(1)	1(0)	0(0)	1(1)
合計 798(85)	2(0)	64(7)	188(24)	266(22)	167(21)	76(5)	16(0)	19(6)

はありません。専従者を置いて事業を継続するためには、諸々の条件を考慮するならば有給とならざるを得ません。さりとて、現在の日本の経済状態の中では、外部資金の導入はとて出来ないのが現状です。

このような現状をふまえて、本会の事業継続のために、会員の皆様に終身会員への移行と、新規会員獲得を是非お願い申し上げます。

ムスターグ・アタ (7,546m) 登山計画

趣 旨

日本ヒマラヤ協会 (H A J) は、広くヒマラヤ地域の登山、踏査、自然、人文科学について研究、実践する、全国の約800名の会員で構成する任意団体であります。

本会は1967年の創立以来インド、アフガニスタン、ネパール、旧ソ連、パキスタン、ブータン、中国とヒマラヤを取り巻く諸国を舞台に80を上回る登山、踏査等のパーティを送り出してまいりました。その活動は数多くの成果を上げております。

さて、わが国の海外旅行熱は、強くなった「円」を背景として未だに衰えを見せておりません。そして、その影響はヒマラヤ登山の世界にも及んでおります。しかし、海外登山の希望を持ちながら身近に良きアドヴァイザーに恵まれなかったり、同行の仲間が得られなかったりして、せっかくの夢も実現できずにいる登山者の数は少なくありません。本会はそうした全国の会員からの要望を応えるために企画しましたのがこの登山です。

サマー・キャンプは、H A J が1977年から1982年までの6年間にわたって実施した「ヒマラヤ登山学校」の経緯をふまえ、1989年から休暇のとりやすい夏期に行なってまいりました。会員の希望の多い7,000mクラスの高峰を目標に、インド・ヒマラヤで6度にわたり実施してまいりました。1993年からは、さらに高度を求めて7,500mを越える高峰、ムスターグ・アタ峰 (7,546m) においても実施され、本年はその3回目であります。ムスターグ・アタ峰は中国の西部、新疆ウイグル自治区にあり、シルクロードの傍らに聳えていたために古くから人々に知られておりました。その登山の歴史にも、S・ヘディン、シプトンとティルマンといった偉大な先駆者達の名を見ることができます。そして、その西面ルートは1956年の中国とソ連の合同隊による初登頂以来、数多くの登

山隊を迎えております。山麓の草原からのぞむこの山は、ムスターグ・アタ (氷山の父の意味) の名前のおりに今も雄大に鎮座し、登山するものの心を魅了しています。

本年のサマー・キャンプには、北は北海道から西は兵庫県まで総勢6名の仲間が参集しました。過去の経験を生かし、目的を達成するために、安全に十分配慮しながら登山をしてまいります。本登山隊の趣旨をご理解いただき、皆様の絶大なるご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。1996年4月

日本ヒマラヤ協会ムスターグ・アタ峰登山隊1996
隊長 中川 裕

目標の山・登山目的

1. 目標の山

ムスターグ・アタ (7,546m)

2. 登山期間

1996年7月20日～8月25日 (37日間)

3. 登山目的

西稜からの登頂/テイクイン・テイクアウトの実践 (山岳の自然を汚染しない運動)

隊の構成

1. 隊の名称

日本ヒマラヤ協会ムスターグ・アタ登山隊

2. 主催

日本ヒマラヤ協会 (英文略称: H A J)

3. 推進の組織

日本ヒマラヤ協会ムスターグ・アタ登山隊
実行委員会

会 長 稲田定重 (H A J 理事長)

実行委員長 山森欣一 (〃 専務理事)

副実行委員長 中川 裕 (〃 常務理事)

実 行 委 員 八木原園明、尾形好雄、
寺沢玲子、野沢井歩 (同

常務理事) 隊員

登山隊事務局

〒170 東京都豊島区東池袋 4-2-7

萬栄ビル501号 日本ヒマラヤ協会

☎ 03-3988-8474 FAX 03-3988-8502

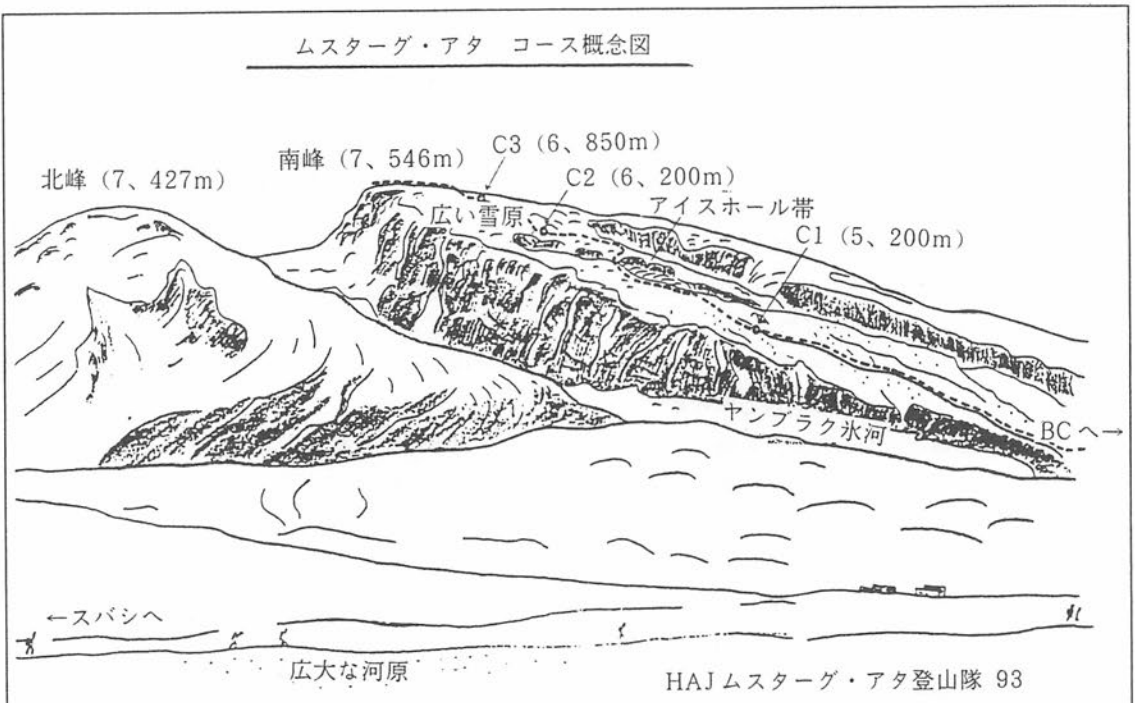
現地連絡先

中華人民共和国新疆维吾尔自治区

喀什市体育路8号 喀什登山協会気付

日程概要

- 7/20 成田～北京
- 21 北京～ウルムチ
- 22 ウルムチ～カシュガル
- 23～24 出発準備
- 25 カシュガル～スバシ (バス)
- 26～27 スバシ滞在
- 28 スバシ～BC建設
- 29 } 登山期間 (21日間)
- 8/18 } 19 BC清掃
- 20 BC～スバシ～カシュガル
- 25 北京～成田



隊員名簿

- ①生年月日・年齢 ②住所・電話番号
③勤務先名・電話番号 ④所属山岳会
⑤海外登山歴

隊長：中川 裕 (Yutaka Nakagawa)

- ① 1960年8月 生 (34歳)
② 〒114 東京都北区
③ (株)ビルワーク
④ 明大駿台山岳部OB会
⑤ 1981 ネパール、ガンガプルナ(7,454m)
1990 インド、サトパント(7,075m)登頂
1991 中国、ミニヤ・コンカ(7,556m)
1992 中国、ムスターグ・アタ(7,546m)
中国、クラウン(7,295m)
1993 インド、ヌン(7,135m)隊長
1995 インド、ヌン(7,135m)登頂

副隊長：石川 龍彦 (Ishikawa Tatsuhiko)

- ① 1952年2月 生 (44歳) O型
② 〒665 兵庫県宝塚市
③ 自営
④ 無所属
⑤ 1983 旧ソ連、レーニン(7,134m)隊長、登頂
1985 " コルジェネフスカヤ(7,105m)
隊長、登頂
" " コムニズム(7,495m)隊長、登頂
1987 チリ、アコンカグア(6,959m)隊長、登頂
1989 インド、ヌン(7,135m)

隊員：西尾 謙市郎 (Nishio Kenichiro)

- ① 1947年9月 生 (48歳) O型
② 〒584 大阪府富田林市
③ 堺東高校
④ 無所属
⑤ 1991 アメリカ、アルバート山(4,339m)
1992 中国、四川省、無名峰 (5,000m)
1994 中国、アルタイ山脈、無名峰(4,000m)

隊員：佐藤 英樹 (Satou Hideki)

- ① 1948年4月 生 (48歳) B型

- ② 〒001 北海道札幌市
③ 札幌医大病院防災センター
④ 札幌登攀倶楽部
⑤ 1981 ネパール、カータン(6,853m)
1982 ネパール、カータン(6,853m)登頂
1989 旧ソ連、コルジェネフスカヤ(7,105m)
登頂
ネパール、アンナプルナ I (8,091m)
隊員：北条 治男 (Houjyou Haruo)
① 1949年10月 生 (46歳) B型
② 〒190 東京都立川市
③ 東大和第一中学
④ スカーロイクラブ
⑤ 1978 ケニヤ、キリマンジェロ(5,895m)
1980 メキシコ、ポボカテベトル(5,452m)
1982 ヨーロッパ、マッターホルン(4,477m)
隊員：品川 幸彦 (Shinagawa Yukihiko)
① 1968年2月 生 (28歳) A型
② 〒371 群馬県前橋市
③ 武尊山観光開発(株)
④ 無所属
⑤ 1992 旧ソ連、レーニン(7,134m)登頂
1993 旧ソ連、ハンテングリ(7,010m)登頂
旧ソ連、ボベータ(7,439m)
1994 旧ソ連、コルジェネフスカヤ(7,105m)
登頂
旧ソ連、コムニズム(7,495m)登頂
1995 旧ソ連、ハンテングリ(7,010m)登頂
旧ソ連、ボベータ(7,439m)登頂

プラブーツ突然破壊シンポジウム(2)

IV プラブーツ販売店の対応

越谷英雄 (ICI 石井スポーツ)

■小売店は呼ばれなかった

我々には実際に販売する方の側としまして、突然破壊の事故が起きている事について、対応だけではなくて感じたことをお話したいと思います。我々も社員にプラブーツの販売に関して一定の教育をしまして、教育というのは用途・メンテナンスの仕方とかを含めてです。

4団体の懇談会があることは我々もよく知っていました。ただ輸入業者との懇談会が何回かあったらしいのですが、我々を含めた小売店の意見は全く聞いていないのですよ。ここにいる皆さんは実際に冬山に行ったり、ヒマラヤに行ったり実際にプラスチック・ブーツを使われている方が多いと思いますが、そういうユーザーと接しているのは我々であって、その我々の意見を言う場がどこにもなかったのです。実は今日が初めてなのです。本当はもっとざっくばらんに4団体だけでやるのではなくて、もっといろんな意見を吸い上げて、これから先どうしようか、というように建設的にやって欲しかったと、言うのが本音です。

現実に我々がお客さんと対応する時に、どういう山に行きますかとか、どういう所で使うのかとか、どのレベルの方なのかをその場で即座に判断しなくちゃいけない。遠征に行く人などははっきりと「これから遠征に行く」とはっきり言ってくれる。ごく一般的な冬山に何とかして行きたい、と言う人には、例えば、靴にもいろんな種類があるので、この方にはどのレベルの靴を奨めたらいいか、という問題もある。

お客さんの中には、遠征で結構高い所に行く方でも、国内の冬山でやっと履けるレベルの靴で遠征に行っている方もいる。こちらでは驚きなのですが、予算の関係などで実際にはこのようなことも仕方ないのかなとも思います。

対応の面で見ますと、例えばコフラックでも壊

れた物はごく一部の物なのです。全品にわたって壊れた訳ではないし、ごく一部の物に出たということです。全く出ていないメーカーも実はあります。メーカーの作り方とか、素材の調合の仕方とか、我々が分かり得ない部分があると思います。現実に一足もこうした破壊が出ていないところも実はあるんですね。全部が全部危ないという訳でもないんですね。

先程重廣さんが云ったように革と違う難しさはあると思うんです。初めて出た頃というのは手入れが楽だということで出たんですね。ただこれは手入れがいらぬということではないんです。例えば、山に行くと泥だらけになったままとか、かなり汚れが付着したまま放っておいて平気か、といったら平気ではないですよ。たとえば、底のゴムにしても、上のアーカにしてもシェルのアーカにしても、当然泥がついていると日本の泥は酸性土壌が多いですね。泥が付きゃばなしになっていると、酸性土壌ですから当然酸化する訳ですから、地球へ還ろうとする×××当然強度が落ちたりする訳ですね。壊れたのが全て製品が悪かったからか、というところでもないような気がします。もうちょっと明確な手入れを、我々がクドクド言った方がいいのかも知れません。

プラスチック・ブーツを購入する方は、冬山に結構行っている人が多いですね。我々が相手をした方は、明確な目的を持った方が比較的多かったですね。勿論プラブーツが革と違って手入れがいらぬということではなく、手入れが楽だということですね。その部分を誤解してしまうと、強度の低下にもつながるのかなと、今にして思えばそう思いました。

4 団体懇談会のメリットとデメリット

特に4団体が発足していろいろ新聞に出たりし

て、いろいろ社会的にも騒がれたと思うのですけれども、こういう4団体が出来てこういうことをやって、どういう面がよくてどういう面が悪かったのかな、どういうメリットがあったのかなということも考えた方がいいと思うんですね。実際に買うクライマーやアルピニストの方は、一ついい点は自分の靴は平気なのかなという、自分の道具に対する意識が高まったと思います、例えば、聞いた話しでは、いままで山から帰って来て泥のついたまま放っておいたとか、点検もしなかった方が、結構多かったですよ。それが今度は点検したり、泥を落として水洗いして汚れを落とすとか、革の時代に準じるような手入れが行われるようになった、と思います。自分の道具に対する愛着は当然あると思うんですが、革靴の場合はクリームを塗るなど手入れをしましたが、プラブーツは比較的そういうことは薄れていたと思うんですが、そういう点を再認識したと思います。それが非常なメリットの部分だと思います。

デメリットの部分も考えてみたのですが、ひとつは、いままでは日本の商習慣では買った物が壊れたりした場合は、小売店がメーカーに折衝していい対応をしたんです。例えば、壊れたからああしよう、こうしようとか、半額にして新しい物にしましょうとか、そういうことが比較的あったんですよ。でもこういう騒ぎ過ぎると言う大袈裟なんですけども、日本人てよくこういう件に限らずですね、自分で自分の首を絞めるような法律を作っていることが結構応々にしてあるんですね。こういうもののデメリットをみていると、例えば、今、登山靴を買いますとこういう性能とか注意書きが書いてありまして、4年たったら壊れる可能性があるから、バラバラになって破損する可能性があるから、それ以上知りませんよ、とはっきり書いてあるわけですね。こういうことがはっきりと結論されているという感じなんですね。こういう現実が起きていることも認識して欲しいなと思うんですね。

大体のメーカーをみていますと保証期間は半年から1年です。それは製品が悪くて×××例えば、耐用年数でいくと5年以上と云っているメーカーは一つもないんですよ。それは今まで5年経った

ら壊れる可能性があるから、(勿論壊れないのもいっぱいありますよ。私はプラブーツをもう10年以上履いている靴があるんですけども)はっきりと明記されているということが出ているんですね。

それと有名なメーカーですけれども輸入元によっては、足数を余分に入れない、小売店から注文が来た物以外は輸入しないんだ、と、それは現実にそれは足数制限なんですね。そうなるとうなるかといいますと、今、自由経済の世の中で、今まで多少の商品が余って輸入元の決算期に「ちょっと余っているから買ってくるんないか」と、くるわけですよ。そうすると我々もそれによって安く買った物は安く売っている訳ですよ。こういう自由経済、自由競争が無くなってくるとい懸念があるんですね。だから皆さんが輸入元が付けた定価どおりに買わなくちゃいけない、という時代に逆にしているような気がするんですね。今までは輸入元も少し余分に入れて決算期に安くして、我々もユーザーにできるだけ安く提供しようということもやって来ました。でもこれからは自分の欲しい靴で、そろそろ春だしプラブーツも安くなるだろうと思って店に行っても、はじめて入った10月頃の値段となんら変わらない現状が最近多いですよ。

これはやはりもう輸入元も数百足とか精々1千足しか輸入していないのに、これでどうのこうのと云われるのは嫌だ、とPL法の問題もあるプラスチック製登山靴を4~5百足売ったって全然儲からない、ということも出て来てるんですね。それで尚且つこういう問題で云われたら、これでは売らない方がいいだろう、小売店から注文が来た分だけを輸入した方がいい、と。簡単なハイキング・シューズを売っていた方がいい、という輸入元が実際出て来ます。

だからこういう話しの持って行き方も、ただ一方的に責めるのではなくて、やはりどうすれば皆さんも安く買えていい物・壊れない物が出るか、建設的な意見を出すことの方がいいと思います。ただ相手を責めたてるよりも、何故こういうことが起こったのだろうか、皆で建設的な意見を出し合って、プラス思考にもっていった方がいいと思うんですね。あまりにもただ国の責任だとか、通

産省の責任だとか、輸入元の責任だとか、責任のなすり合いばかりをやっているような気がしますので、その割には我々の意見を全然一回も聞いて呉れていないです。我々小売店からみる現状というものも知って欲しい訳です。我々は出来るだけいい物を安く売りたいというのが前提です。

プラブーツというのは、スキー靴に比べると非常に少ないですね。先程重廣さんから数字の紹介がありましたように、一番少ない年で3410足しか入っていないんですね。全部の種類でたった3400足です。スキー靴だと100万足の単位で入っているんですよ。それが登山靴になると数千足から精々5~6千ですね。これ位の数ではメーカーにしてみれば、日本でやっている数とプラスチック・登山靴だけでやっていたら、メーカーは全然ビジネスにならないんですね。他の方の取次ぎをしてみるとか革靴とかを含めていて、おそらくなんとかビジネスになるんじゃないかと思うんですね。数からいって非常に少ない訳です。金型を作るにしてもそうですし、改良する開発費にしてもおそらくかなりスキー靴みたいな新しい物が出て来ないというのは、そういうことだと思うんですね。そういう現状を皆さんは知っていて欲しいと思うんですね。このメーカーの苦しい現状の中で、よりいい物を作っていくには、どうすればいいのか、ということ逆を皆さんの意見をメーカーとか我々とか輸入業者に対しても、ドンドンぶつけてもらった方がいいと思うんですね。これは使う側としての意見としてはこうだよ、というものをもっともっと言ってもらった方がいいと思うんです。

■いい革が減っている

我々も、これには、プラスチック・ブーツとしてあるんですけれども、[編注：今回のシンポジウムのこと]我々にとってはプラスチック・ブーツは、勿論売っている道具の中の何千の内に一つであって、ただ一番大事な装備の一つでもある訳ですね。

当然プラスチック・ブーツが出て来たことによって、ワンタッチ・アイゼンが出て来たり、逆にクライマーとかアルピニストの方にとっても、ある意味では非常に楽になったと思うのですよね。先

日も社員を連れて谷川岳に行ったんですが「プラスチック・ブーツはいいね」という話もあるんですね。プラスチック・ブーツと革靴を持っていて、アイゼンを着けて登ってみてどういう違いがあるか、やってみたんですが、プラスチック・ブーツの安定性が抜群にいいという意見が圧倒的に多いですね。革の靴が駄目ということではないんですけども。

現在本当にいい革というのはスイスとかドイツにしか無くなって来ているんですね。昔はアメリカのいい革がいっぱい入ったんですけど、それも日本には入らなくなった。現実にはスイスやドイツの革も不足してきていまして、あと本当にいい革があるのは北欧にしかない、北欧だけでとれる革の量で、日本が例えば、そういういい革を輸入していたらどうなるか。北欧はご存じのとおり消費税・税金が給料の半分ちかくいっている国でしょう。そういう国のコストの高い革を輸入したら、登山靴一足十万円くらいとられてしまう。これは冗談ではなくてそれくらいの現状だと思うんですよ。革の質をどうのこうの言わなければいいですよ。自衛隊が使っているような軍靴、あの程度の皮だったらまだ他にも幾らでもあるでしょう。でもやはり我々が命をかけてマイナス30度・40度の所で使う靴はそんな革ではとても使えませんし、最高の革となると現状ではスイスとドイツの革ですね。そういう革で今登山靴を作ると大体既製品で4~5万円、オーダーなんかではもっと高くとっているところもありますね。特にダブルになったら十万円くらい。十万出さないとハンド・メイドでいい靴はできないですよ。デパートに行くと紳士靴の簡単な靴が手縫いで十万以上しますよ。そういう現状は知っておいてもらった方がいいと思うんですね。

それに比べて今、プラブーツが幾らとかいえば、2万~3万、4万も出せばかなりいい物買えますね。結構安い訳ですよ。高い高いと云っていながら、比較的小売店の店頭はまあまあそのくらいで売っているのが現状です。これは奇麗事を言う訳ではなくて、実に割り引いて売っているものもあるし、定価を下げて定価販売している商品もありますし、靴の種類によってメーカーによっていろ

いろなんです。

我々にとっては一番大事なのは誰かといったら、買ってくれるユーザーなんですね。ユーザーを大事にしないで商売ができるか、といったらできる訳がないですね。(輸入元と幾ら仲良くしたって)我々にとって商売というのは、ユーザーがあってこそ商売ですから、そういったところの意見を一番聞きたい訳ですね。

もう一つはいい物を安く提供するということが今の時代だと思うんですね。やはりデフレの時代ですから×××だいたい他製品よりもすごく値段下落していますね。トレッキング・シューズにしても羽毛の寝袋にしてもそうですし、他の製品に関してもここ3年間すごく値段が下がっていますね。ある面ではいい物を安く供給するという事は私達の役目だと思っています。勿論こういうプラスチック・ブーツの破壊という部分の経緯に関して、いい情報というものが×××。

今まで山岳4団体とスポーツ用品工業協会まではそういう話しができていたみたいなんですけれども、我々こういった討議に入ったのは一回もないんですね。そういうことは、ユーザーと一番接している我々の意見が全く反映されていない、という現状ではあると思うんですね。今日はいいことを言わせてもらい申し訳ないんですけども、ここには小売店の方もいらっしゃると思えますけれども、そのへんが我々の本音だなと思うんです。

この中で一番気にしたのは、幾つか保証書を持ってきてますが、国内のみでの使用での保証とか、海外で使う分に関してのメーカー保証は全くされていませんから、海外ではどういう対応をするのかわからないとか、いろいろそういった部分があるでしょうし、保険の関係があるんですね。傷害保険に各輸入元は全部入っているんですから、海外で使った場合に適用できないのではないかなと思うんですね。

ある程度デメリットの部分も出て来ているんですけども、あまり輸入元を逆に追い込まないで、建設的にユーザーが我々もそうですが、多くの中から自分に合ったプラスチック・ブーツを選べるようにするのが、一番いい姿でないかなと思うん

ですね。輸入元が制限しちゃって今の時期プラブーツ買いたいと思ったら、このメーカーのこれはあるけれどもあとは全然無いよ、と言われてしまったら選びようがないですよ。自分の足型に合わないかも知れないし、目的に合わないかも知れないですね。そういう部分が無いようにですね、我々にはできるだけ、輸入元と今後話していきたいと思うんですね。

■小売店に相談を!

勿論我々が商売でやっている以上は、プラスチック・ブーツでも十年以上経っていますので、壊れる問題も我々にとっても憂慮することは一番確かな問題ですし、今までの使っている側の方の雰囲気の部分で、いきなり壊れたからということもあると思うんですよ。

我々が社員に言っているのは、物である限り絶対に壊れない物はない、と、ただそれは、いつ壊れるか、どういう状態で壊れるか、例えば我々売る時には出来るだけこういう保管をして下さいよ、とか出来るだけ言うようにしています。現実に例えば、この蛍光灯の真下にいると、蛍光灯から紫外線が出ていますから、できたら十分に乾燥した上で、勿論泥や汚れを落とさせていただいて、できるだけ紫外線の当たらない場所、蛍光灯の真下は絶対駄目ですね。勿論直射日光とか当然駄目ですけども、できるだけ涼しい場所に保管して欲しい、ということを社員に教育しています。してあるんですけども、たまたま勿論そういうことが洩れることもあります。

やはり、こちらからお願いしたいのは、今後プラスチック・ブーツをお買いになる場合は、このお求めになる専門店によく相談するということが大事だと思うんですね。自分のレベルに合った商品ですとか、目的に合った物をできるだけ求めて欲しいですね。最近注意書きとか保証書がついていますので、捨ててしまわないで読んでいただいで、もう一回自分の靴は何年くらい経っているのだろうか、と判断して欲しいですね。自分の靴をチェックしていただいて、キズは本当についていないとか、アイゼンで自分の穴をあけている方もいます。遠征に行ってくる普通の使用よりずっ

と消耗する訳ですし、モンブランのノーマル・ルートを一回登っただけでもプラスチック・ブーツは消耗します。自分がどういう山に行ったのか、どういう負担がかかったのかということを含めて、心配だったら小売店に相談していただいて、その判断を仰いでもいいんじゃないかなと思います。

もし我々でも分からなければ、輸入元には重廣さんみたいな方もいらっしゃると思いますので細かい相談にものれると思います。相談に来て欲しいと思うんですね。これだけプラスチック・ブーツが冬に使うのが多いというのは、デメリットよりもメリットが多いから使っているんですね。我々も一回プラスチックを履くと、革の×××靴を履けないと思うし、いいところも多いと思うんですよ。最終的に自分のご判断もいいと思うんですけれども、道具に関しては我々はプロですから、できるだけいい回答をしたいと思いますので、専門のスタッフに相談していただいていいんじゃないかなと思います。

プラスチック・ブーツの破壊が発生した時に、コフラックというメーカーの限定されたピンク色の靴だけだったんですね。他の靴はほとんど無かったです。プラスチック・ブーツの素材構成がメーカーによって違うのですけれども、ナイロン系所謂ポリアミド系と普通ウレタン系のものとに分かれています。ナイロンの特性というのですが、一つにはナイロンの蛍光色は紫外線にはちょっと弱いんですね。ウェアでも蛍光色を使っている物については、素材のことを聞いた方がいいですね。例えば我々がゴアテックスの雨具に蛍光色を使う場合は素材を変えています。それはナイロンでは駄目で、例えば、ポリエステルに変えたりします。素材の特製を知っているところであればそういった色によってアレンジはしているんですね。

ナイロンのもう一つ弱い点は、白いナイロンは紫外線に弱いんですね。クライミングのロープも完全に真っ白というのは無いんですね。紫外線に弱いから染色して対光性を高めているんです。ポリエステル系の素材は真っ白であっても、染めなくても元々紫外線に強い素材ですから問題ないんです。では何故ロープにポリエステルのロープが無

いかということですね。昔はあったんですね。今から33念ほど前、実はテトロンはポリエステルですから、テトロンのザイルがあったんですね。何が駄目かということポリエステルはちょっと重いんですね。後は摩擦ですね。もつれにポリエステルは弱いところがあるんですね。

最近ザックにもナイロンではなくてポリエステルの物も出て来ました。一つには対光性ということで紫外線、濡れた場合に乾きが早いとか、そういった素材特性を考えてポリエステルの生地を実際に使います。ウェアも従来ゴアテックスの雨具だと冬のヤッケは、ナイロン100%だったんですが、最近はメーカーによっては冬のジャケットの中にゴアテックスのラミネートにポリエステルを使っているのが増えています。アメリカですとマウンテン・ハードウェアなどです。

現在プラスチック登山靴ではこういったポリエステルということはない。速乾性の肌着、ダクロンもポリエステル系です。こういうポリエステルの製品が実際登山靴として使えるかどうか、今の段階で分かっていないのでなんとも申し上げることができないんです。大まかに分けてポリアミド系の物と、ポリウレタン系の物に分かれるんですね。それを知っておいていただくと、プラスチックの特性が見えて来るのではないかなと思います。

小売店の立場で皆さんと対応する場合、一番気になるのはどういう山に行くのか、どういう使い方をするかです。勿論メーカーというのは、例えば4機種なら4機種のプラスチック・ブーツを売っていますね、ヒマラヤの遠征で使える物とか、ごく一般的に×××使える靴とか、アイス・クライミング向けの靴とか、低山の雪のある所ぐらいのプラスチック・ブーツとか、そういったレベルに分けて物を作っています。

みているとかなり有名な方でも、一番低レベルの物を雪山のクライミングで、使っている人もいますので気になる部分もあります。そういう人は自分のレベルをよく分かっているんですね。そういう判断はそういうベテランである以上、自分で決めることだと思ってるから、ぼくらがこれは一応×××といても、それを平気で使ってしまうて、使う技術があれば、用具というのはそれで通っ

てしまうところがあるんですよ。こなせる技術があれば。一番難しい部分でもあるのはここだと思うんですね。我々が例えば、アイス・クライミングではハードに使うんだから、これくらいのレベルの物を使って下さいよと、材質が違えば使い方も違いますよといってもね、本人が今まで革の靴を履いてもこうやって来たんだから、このレベルでいいんだといわれれば、ぼくらは何も言えないんですね。あくまでもアドバイスするぐらいしか言えない訳ですよ。我々の商売している中にもそのような難しい部分があることを、理解していただきたいと思います。

V ブラブーツ突然破壊体験報告

■浅見昭夫=1993年8月 マッターホルン

浅見です。買った時期が古いので参考にならないケースもあるだろうと思いますし、我ながらヨーロッパに行く機会などというのは、めったにないにもかかわらず、数万円の靴をケチって十数年前の靴を持ち出して履いて行った恥ずかしさもありまして、できれば隠そうかとも思ったんですけれども、午前中に話しがあったように、たいぶ前に山をやりまして暫く山行を中止して、また山を再開する時に古い靴を持ち出して、同じような目に遭う人もいるのではないかと思います。体験を報告させていただきます。

靴はスカルパのグリンタで、当時はコフラックを履いていた人が多かったと思うんですけれども、スカルパのグリンタは足入れが良かったということと、値段が安かったということで選びました。安価44,500円、購入価格31,150円です。1983年12月3日に購入してから3シーズン使用しました。そのあと7年半押入れに仕舞っていたんです。マッターホルンに登ろうと思った時に、アイゼンを着けて登る場所が頂上直下数ピッチあると聞きましたので、アイゼンを着けて山に登るならブラブーツしかないと思い押入れから出して持って行きました。

マッターホルンに行く前に、山溪に出ていた吉川さんの記事を読んでいまして、この時に買い替えるかどうか迷った訳ですけれども、押入れから

小売店の立場で言いたいことを言ったんですが、こういったことについて我々も真剣な気持ちでいますし、小売店の立場から一番気になる部分は、自分達が売った物が壊れるということは、実は一番不名誉でもあるんです。何故かという、そういう製品を我々が仕入れて実際に店頭において売った訳ですから。不名誉でもあるし、責任もあるんですね。それだけにこういう場を提供していただいて有り難かったと思います。このあとのディスクッションでも、いろんな意見を出していただきたいと思います。

出して見たところ、傷もありませんし色の変化などもみとめられ無く、近所を10分ぐらい履いて歩いてても問題なかったのを持って行きました。もし、途中で壊れることがあればツエルマットで買えばいいと気軽に考えていました。

実際にツエルマットに着いて3日間使った訳ですけれども、初日アイゼン着けないで4時間、二日目ヘルンリ小屋まで。アイゼン・バンドは二本締めのもので使いました。ワンタッチ・アイゼンがまだ信用できなかったことと、ネオブレンのバックルであれば、締め過ぎることもなくゆるむ事もないという理由で選びました。結果論になりますが、ほとんどアイゼンを着けて行動したことが、もしかしたら壊れるのを遅らせたのではないかと、という気がします。

実際の行動ですが、ヘルンリ小屋から頂上まで標高差約1200mあります。頂上に登ってソルベイ小屋まで降りて来た時に、アイゼンを外しました。アイゼンを外して下り始めてすぐ、まず左足からカパカパ音がしてきました。足下をみると亀裂が入っていました。それでまた少し下った所で今度は右足からもカパカパ音がしてヒビが入っていました。何とか下の小屋までもってくれと祈りながら歩いてたんですけれども、左足の先端が完全に口を開いてカパカパ遊んでいる状態になりました。このまま履き続けるのでは危ないな思いまして、ソルベイ小屋から100mぐらい下った所からはインナー・シューズで降りてきました。

まず、靴にヒビが入った時には、プラスチック・ブーツが壊れるということ、事前に記事で読んでいましたのでそれほどパニックにはならなかったです。ただし、なんで俺のがという気持ちと、もう一つは、多分マッターホルンに登るのはもうないと思いますので、一生に一度のことなので新品買わなかったのだろうか、そういう気持ちで、買えばよかったなと思っていました。

自分にとって意外だったのは、インナー・ブーツがですね、×××ではないのでヤワだということ、インナー・ブーツの靴底が非常に滑り安いということをはじめて知りました。積雪期の本当に雪のある所で壊れた場合には、インナー・ブーツで降りるなんて言うのは凍傷の心配がありますから、全くできないと思います。春山ですら壊れて下って来たら、なんとか雪の無い所までくれば、あとインナー・ブーツで歩こうか、という人も中にはいると思いますけれども、インナー・ブーツは歩くための靴ではありませんので、もし壊れた場合にアイゼンを着け直した方が、良かったのではないかなと思います。

マッターホルンの場合は、途中のアップ・ダウンが無いので下りだけなので、インナー・ブーツで降りられるのではないかと思いましたが、一歩足を踏み出すごとにズルッ、ズルッと滑ってですね、このために非常に消耗しました。インナー・シューズの底もクライミング・シューズのソールのような性能があればいいなと思いました。ただ、靴を履く場合に、私はシェルにインナーをセットしてから履きますが、人によってはインナーを履いた後に、ガンガンとシェルに突っ込んでいる人もいますので、インナー・シューズの靴底が滑らない場合は、先にインナーを履いてしまいますと、シェルの中でインナーが滑らなくて履けないと思います。ですからこういうようなことは、雪の無い所で壊れた私だけが感じたことかも知れません。

疑問に思った事は、ペアなので製造した年月日も当然同じなんですけれども、なんでほとんど同時に壊れたのかなという気がしました。例えば靴下でも穴があく時は片足にあいて、もう一方は大丈夫で勿体ないと思いつつも捨ててしまおうですが、プラスチック・ブーツの場合は他の報告をみ

ても、ほとんど両足が壊れています。

もう一つは古い靴だったということ、プラスチック・ブーツは高張る物ですから、実はツエルマットで捨てて来てしまっていて持ち帰りませんでした。これは私の失敗だと思うんですが、もう一つ持ち帰らなかった理由は、登山者の命にかかわるような問題ですから、すぐ解決されるだろうと勝手に自分で考えてしまって持ち帰らなかったんです。

壊れた状況は書いてありますとおり、バラバラになったとしてありますが、どの程度バラバラになったかを具体的にお見せできないのが残念でありますけれども、結構高張る物でありながら小さいサブザックにスッポリ納まってしまいました。

私の場合は、事前に壊れるという予備的な知識がありましたので、割と落ち着いて行動出来たんですが、もし記事を読んでいなかったら、知らないで靴が壊れたら非常にパニックに陥っていたのではないかなと思います。

山溪や岳人のヨーロッパのカラー・グラビアを見ますと、ほとんどの人がプラスチック・ブーツを履いていますので、これが主流だと思っていたんですが、私が登った93年8月のマッターホルンではプラスチック・ブーツを履いている人が少数でした。日本人も十数人いましたが、私以外に一人でした。現地のガイドもプラスチック・ブーツは少数派でした。

大石) 同時に両方が壊れたということですが、一般論でいいますとこういう品は、金型で大量生産しますのでほとんど同じように出来てます。右、左で金型も違いますから微妙な違いはありますが、手で作る物と比べると同じような条件で作れます。時間が同じですから同時にいく場合が多いですね。右と左で使用条件が全く同じということはまず考えられないですから、使用条件が原因で壊れるような場合には、左右でバラつくことが多いのですが、ほとんど同時という事は、ひとつには形質的に変化が来ている。例えば加水分解、もう一つは屈曲、折り曲げでやられる場合と二つある。特殊な異常条件、突発的な要件ではなくて、形質的な変化かあるいは屈曲というパターンでやられる。

■野沢井歩＝1995年7月ティリッチ・ミール

野沢井です。95年6月から7月にパキスタンのヒンズー・クシュのティリッチ・ミールに行きました折に、私の履きましたローバーのチベタンにヒビが入りましたので報告します。

まず、発見時の状況ですが、高所順応を終えてアタックのため、C3(6700m)でヒビが入っているのを発見しました。C3からC4の間には氷を登るところがありまして核心部になるのですが、次の日からアタックに向けてそこを登らなくてはならないという前日に、ヒビが入っているのに気づきまして、非常にショックを受けました。ヒビの大きさがまだ2cmぐらいだったことと、ここまで来て自分は登りたいという意欲があったので、多少不安だったんですが、ガムテープを貼ってアタックしました、結局登頂してベース・キャンプに降りて来て、プラブーツを見た結果、ヒビは全然広がってなくて、何事も無く無事帰って来る事ができました。プラブーツにヒビが入るということで非常に不安定で怖い思いをしました。

初めのC2迄はローバーの正規のインナー・ブーツを使っていました。その他にコフラックのICIのオリジナルのインナーを持って行きて、アタック時にはこれを履いて行けば、凍傷の心配はないのではないかと安易に考えまして、ディルゴム・ゾム登山の時からこれを使用しました。

このローバーのプラブーツは、国内用として使っていました。ヒマラヤ登山にはコフラックのバリオ・エクストリウムという大きめの靴を使っていました。今回はC3からC4の間に氷を登る場所がありまして、コフラックではサイズが大き過ぎると、国内のアイス・クライミングはローバーでやっていたこともありまして、今回のヒマラヤ登山だけローバーを履いて行って、結果こういう事態になってしまいました。

気象状態はメチャクチャ寒いということもなく、日本の普通の冬山と変わらない気温に感じました。

このローバーのプラブーツは93年1月にカモンシカスポーツで購入しました。初めはこの靴はヒマラヤに行くために買ったんですが、ICIの越谷さんから、ヒマラヤならコフラックのバリオ・エ

クストリウムの大きめのサイズの方がいいのではないかと、アドバイスされましてローバーを国内用にしてコフラックをヒマラヤ用にしました。

ローバーは買ってから主にアイス・クライミングや雪稜等に使用しまして、海外でも93年に一度アコンガグアで使いました。保管につきましては、性格がズボラなので履きっぱなしで手入れもしていませんでした。アプローチなどでもインナーで歩いたりしていましたので、使い方は本当に雑でした。

— P 6 からの続き —

1時間か、やっとタターに着く。パッティがあり銃を持った村人がいる。2時間強歩き登って前方が開けると広々とした気持ちの良いアルプ、メルヘン・ヴィーゼ(フェアリー・メドウ=お伽の牧場)だ。執拗にナンガ・パルバートを攻めていたドイツ隊が付けた名称である。ここで彼等は装備一式を盗まれた。気を許せない人と村ではある。しかし光景は絵のように美しく、視界一杯にナンガ・パルバートが広がる。角田さん達のテントが雪崩にやられたのはあの左の辺りだよな、黙祷。飛田さん達はその左の山に登ったんだな。ナンガの真正面にテントを張る。夕焼けでピンクに化粧したナンガ・パルバートに浸りながら、またしても心地良いメルヘンチックな夜を過ごす。

翌日、早朝この台地を奥に2時間ほど進み、ナンガの氷河への下降点まで行って荒れたクレバスを眺めて戻る。もう一日いてもよかったが、感動の衰えを嫌ってナンガへ別れを告げた。少し喜び過ぎたのだろうか、スタートの手前15分の地点で忘れていた膝の激痛に襲われた。薬を塗りサポーターを嵌め、ステッキを出して騙し騙し下る。日本を出て初めてだ。用心、用心! 帰りのジープは助手席が山側になり恐怖心は安らいだ。ナンガに心燃え、メドウになごむ一夜であった。ダンケ・シェーン、メルヘン・ヴィーゼ。3時間でギルギット、思ったよりも大きい町だ。PTDC(パキスタン観光社)のChinar Innに泊る(600Rs=¥1,660)。高いがみな親身で満足する。やっぱりここまで来たのだから、バルトロの基地・スカルドとフーシェ谷に行く事にしよう。

■ 寸 感 ■

韓国の釜山で開かれた「第2回日韓岳人シンポジウム」に招ねかれて参加した。

韓国でこの会の中心となっているのは、大韓山岳連盟であるが、傘下の各地方連盟の多くの岳人が選抜されて参加した。

日本でも一時代前ぐらいは、国内各山岳団体の関係がギクシャクしていたと聞かすが、今の韓国はまさにその最中のように、この会には、私の知っているもう一方、二方の系列の岳人の参加はなかったのは淋しいことであった。(山森)

事務局日誌(6月)

- 4日(火) ムスターグ・アタ隊員取消し通知。
7日～8日 登山医学シンポジウム(於高山、山森、八木原)
9日～10日 日山協海外遭難対策研究会(於高山、山森、八木原、尾形、中川)
10日(月) ムスターグ・アタ隊荷引渡し。
ヒマラヤ296号発送
12日(水) ネパール、パル・テンバ氏、山岳博

物館の件で来会。

- 13日(木) チベット登山協会からヤンラ・カンリ同意のFAX届く。
24日(月) 東京集会(16名)
25日(火) 1997年女性ムスターグ・アタ登山許可申請書送付
26日(水) 石川富康氏出版記念会(於スクワール麴町、山森)
29日(土) 栃木県南ヌン社行会(於栃木市、山森、中川)

ヒマラヤ No.297 (8月号)

平成8年7月10日印刷 8年8月1日発行
発行人 稲田定重
編集人 山森欣一
発行所 日本ヒマラヤ協会
〒170 東京都豊島区東池袋4-2-7
萬栄ビル501号
電話 03-3988-8474
郵便振替 00100-6-48954「日本ヒマラヤ協会」



高山病対策の必携品

ガモフバッグとパルスオキシメーターのレンタル開始!

加圧しただけで約2000m下山したのと同じ環境を作るガモフバッグ、高山病診断、予防のためのパルスオキシメーター。高所を目指すあなたをそろって力強くサポートします。

- ガモフバッグ(携帯用高压バッグ/総重量6.7kg)
- パルスオキシメーター
(血中酸素飽和度測定装置/重量380g/単3乾電池4本使用/携帯型)

総代理店：日本メディコ株式会社

レンタル・販売問い合わせ先：株式会社 ティ・エッチ・アイ

〒135 東京都江東区木場2-5-7 KHビル7階

TEL: 03-5245-0511 FAX: 03-5245-0510

(隊荷の輸送、航空券の手配などもお任せください。)

TREASURE TOUR



EXPEDITION & TREKKING

自分の旅だから、自分でつくる。そんなあなたを応援いたします。

—— 遠征隊、トレッキング、秘境への旅 ——

あらゆる申請・許可取得、現地手配、航空券、山岳保険など、
お客様のご要望に遠征経験豊富なスタッフがご答えします。



マウンテンラベル株式会社

〒105 東京都港区新橋3-26-3 会計ビル4F

☎03-3574-8880

三井航空サービス代理店2452号

遙かなる高みへ



個人・グループの手配旅行、航空券の取り扱い専門デスク



キャラバンデスク TEL03-3237-8384

～地球の果てまであなたのキャラバンのお手合い～

トレッキング・登山隊の許可取得から航空券・現地手配までお引き受けいたします。
～ネパール・インド・ブータン・パキスタン・東南アジア・アフリカ・南米～

トレッキング・海外登山
シルクロード・秘境旅行
のバイオンア



株式
会社

西遊旅行

東京本社 〒101 東京都千代田区神田神保町2-3-1岩波書店アネックス5階 ☎03(3237)1391(代表)

キャラバンデスク 〒101 東京都千代田区神田神保町2-3-1岩波書店アネックス5階 ☎03(3237)8384(代表)

大阪営業所 〒530 大阪市北区神山町6-4 北川ビル5F ☎06(367)1391(代表)

カトマンズ営業所 JAI HIMAL TREKKING(P) Ltd. P.O. BOX3017 KATHMANDU, NEPAL ☎221707

運輸大臣登録一般旅行業607号

ヒマラヤへの装備

●遠征隊の装備、相談にのります。



Mt. EXPEDITION SHOP ICI ISHII SPORTS

- 登山本店/〒169 東京都新宿区百人町2-2-3 ☎03(3208)6601代
- スキー&カヌー本店/〒169 東京都新宿区大久保2-18-10 ☎03(3209)5547代
- 新宿西口店/〒160 東京都新宿区西新宿1-16-7 ☎03(3346)0301代
- 新宿南口店/〒151 東京都渋谷区代々木1-58-4 ☎03(5350)0561
- 神田登山店/〒101 東京都千代田区神田神保町1-8 ☎03(3295)0622
- 神田店/〒101 東京都千代田区神田神保町1-4 ☎03(3295)3215
- 神田ウェア館/〒101 東京都千代田区神田神保町1-6-1 ☎03(3295)6060
- 八王子店/〒192 東京都八王子市横山町3-12 ☎0426(46)5211
- アネックス八王子店/〒192 東京都八王子市横山町3-6 ☎0426(46)3922
- 川越店/〒350 埼玉県川越市南通町14番4 ☎0492(26)6751
- 大宮店/〒330 埼玉県大宮市宮町2-123 ☎048(641)5707
- 高崎店/〒370 群馬県高崎市新町5-3 ☎0273(27)2397
- 松本店/〒390 長野県松本市中央2-4-3 ☎0263(36)3039
- 新潟店/〒950 新潟県新潟市東大通2-5-1 ☎025(243)6330

- 新潟ブルーカ店/〒950 新潟県新潟市天神1-1 ブルーカ3 B1 ☎025(240)2316
- 仙台店/〒980 宮城県仙台市宮城野区榴岡4-1-8 ☎022(297)2442
- 盛岡大通店/〒020 岩手県盛岡市大通1-10-16 ☎0196(26)2122
- 札幌店/〒060 札幌市中央区南二条西4-8 ☎011(222)3535
- ルート36真栄店/〒004 札幌市豊平区真栄一条2-13-2 ☎011(883)4477
- 北十二条店/〒001 札幌市北区北十二条西3-5 ☎011(747)3062
- 2番街店/〒060 札幌市中央区南二条西1-5 ☎011(219)1413
- 旭川店/〒070 旭川市六条通8-37-2 ☎0166(24)5300
- 外南部(メールオーダー)/〒169 東京都新宿区百人町2-2-3 ☎03(3200)7219



ICI 石井スポーツ

事務所/〒169 東京都新宿区百人町1-4-15 ☎03-3200-1004